

## 2. 県民フォーラム等の企画・開催運営

本節では、普天間飛行場跡地利用県民フォーラムを開催し、今年度策定した「全体計画の中間取りまとめ（第2回）」及び普天間飛行場跡地利用についての取組を県内外に広く合意形成・情報発信を行った。

### （1）普天間飛行場跡地利用県民フォーラムの概要

「全体計画の中間取りまとめ（第2回）」及び普天間飛行場跡地利用に向けての取組を、県内外に広く周知・発信し、返還後のまちづくりに関する気運醸成を図ることを目的に県民フォーラムを開催した。また、同会場で「全体計画の中間取りまとめ（第2回）」の考え方を解説したパネル展を開催した。興味・関心に繋げる仕掛けとして、跡地一体の昔の風景を復元した原風景模型や地形模型、地層模型の展示、未来のまちを体験できるコーナー（バーチャル普天間未来シティ）を設置することで、これまで跡地利用に関する情報に触れる機会の少なかった県民・市民の認知度向上と、今後の展望に夢を抱いてもらう機会を創出した。

併せて、アンケート調査（アンケート用紙、Web アンケート）を実施することにより、広くフォーラム参加者の意見を聴取した。

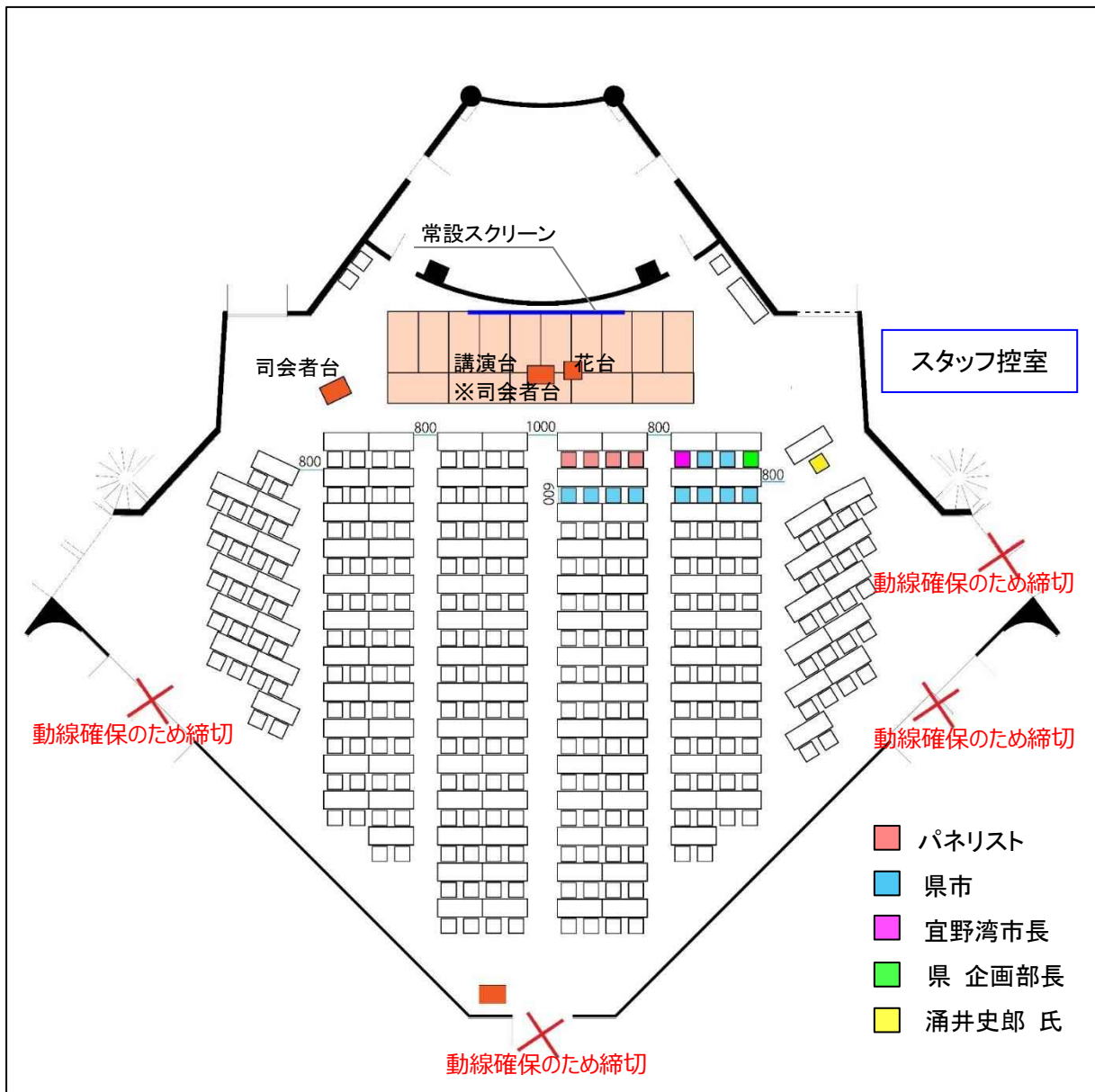
#### 1) 開催概要

開催日時及び場所は以下の通りである。

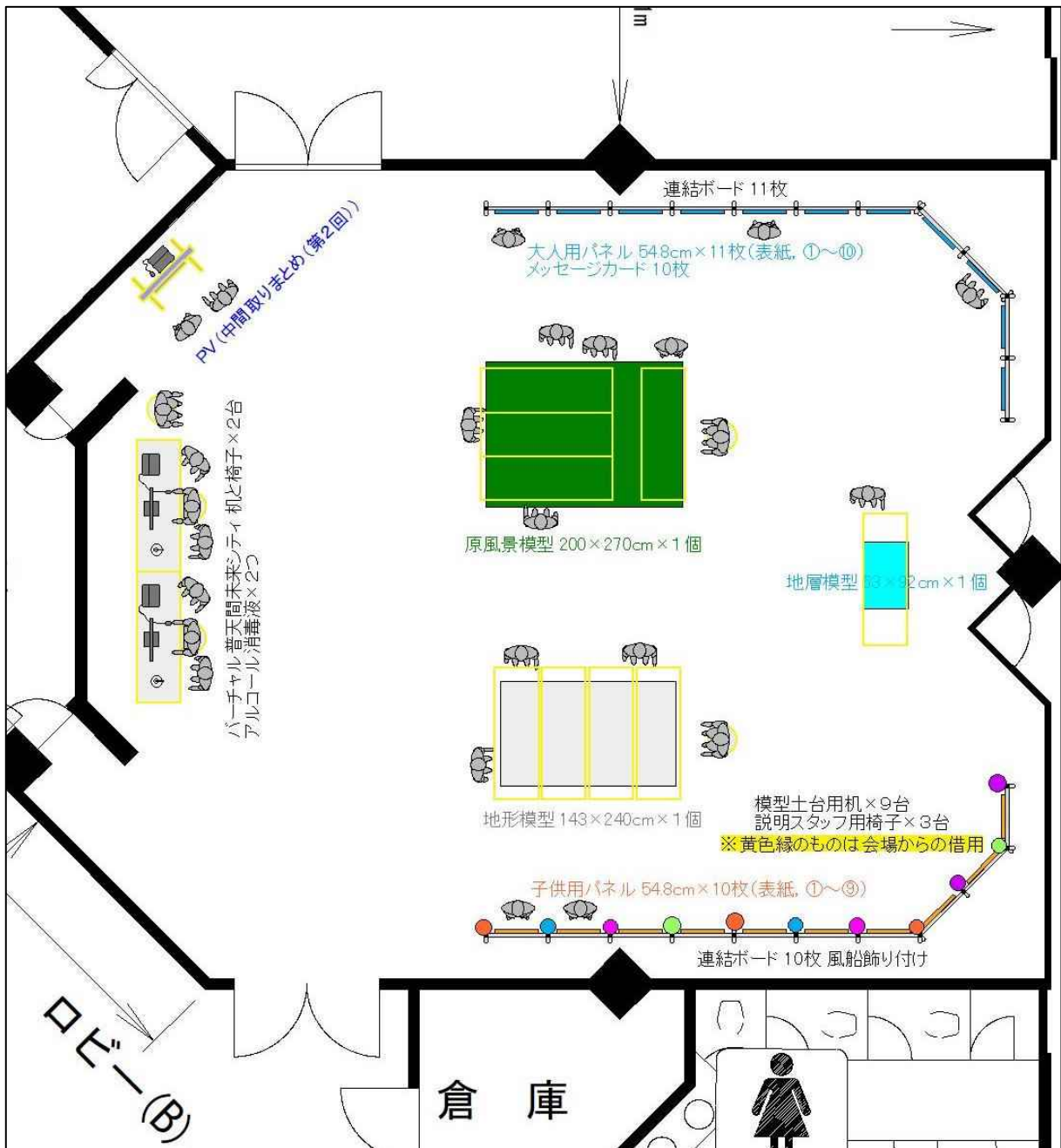
また、フォーラムの内容をより広く発信する為に、期間限定のアーカイブ配信を実施した。

表IV-1 県民フォーラムの開催概要

名称	普天間飛行場跡地利用県民フォーラム-普天間飛行場未来予想図 2.0-
日時	令和4年11月5日（土曜日） 14:00～16:10（基調講演・パネルディスカッション） 11:00～17:30（パネル展）
場所	沖縄コンベンションセンター会議棟A1（基調講演・パネルディスカッション） 沖縄コンベンションセンター会議棟A2（パネル展）
参加費	無料
定員	会場参加：250名、オンライン参加（Zoom）：100名
プログラム	第1部：基調講演「沖縄のポテンシャルを生かした価値ある跡地利用にむけて」 講師：涌井 史郎 氏（東京都市大学 特別教授） 第2部：パネルディスカッション「魅力的なまちを私たちの手で育てていくには」 コーディネーター：石垣 綾音 氏（まちづくりファシリテーター） コメンテーター：涌井 史郎 氏（東京都市大学 特別教授） パネリスト：真喜屋 美樹 氏（沖縄持続的発展研究所 所長） 又吉 信一 氏（宜野湾市軍用地等地主会会長） 福原 海里 氏（琉球大学学生、OrgaNect 合同会社代表）
アーカイブ配信	沖縄県の公式 YouTube チャンネルにおいて 2022 年 12 月 22 日～2023 年 2 月 28 日迄公開した。



図IV-30 県民フォーラム会場レイアウト



図IV-31 パネル展示会場レイアウト

## 2) テーマ設定の趣旨（基調講演・パネルディスカッション）

### 【第1部：基調講演】

テーマ	沖縄のポテンシャルを生かした価値ある跡地利用にむけて
テーマ設定の趣旨	跡地利用が先送りになる中で県民や地権者の関心も薄れがちな今、改めて関心を持ってもらう。自己の所有する土地単位だけで考えるのではなく、全体の土地利用の工夫によってまちの価値を上げ、県民の暮らしが豊かになるというビジョンを自分ごととして感じてもらう機会にしたい、テーマを設定。

### 【第2部：パネルディスカッション】

テーマ	魅力的なまちを私たちの手で育てていくには
テーマ設定の趣旨	基調講演で示された環境の時代の魅力的なまちのイメージを受け、そのようなまちがどんな価値を持つか、どう県民の豊かさにつながるかについて、議論を展開。さらにそのようなまちを普天間飛行場跡地でどう実現するか、自分たちはどう関われるのかを討論。 都市政策の専門家、地域の複雑な事情を抱えつつ跡地利用への期待を伝える地権者代表、そしてこれからの沖縄を担う若い世代といった、多様な立場の方々に登壇いただき、聴衆である県民の理解と共感を深める場とする。

## 3) 周知方法

周知方法は以下の通りである。次頁（IV-36～37頁）のチラシを配布・掲載。

表IV-2 県民フォーラムのチラシ配付・掲載先一覧

	配布・掲載先	備考
①	跡地利用関係市町村／国関係機関への配布	
②	宜野湾市内小中学校/沖縄国際大学への配布	13校
③	軍用地等地主会連合会への配布	
④	広報誌ぎのわん	2022年10月11日掲載
⑤	筥柄曆	2022年10月12日掲載
⑥	宜野湾市商工会 HP	2022年10月13日掲載
⑦	社団法人沖縄県軍用地等地主会連合会（土地連）HP	2022年10月13日掲載
⑧	宜野湾市 SNS（LINE）	2022年10月17日掲載
⑨	沖縄コンベンションセンターHP（イベント案内）	2022年10月17日掲載
⑩	那覇商工会議所 HP	2022年10月19日掲載
⑪	ごーやーどっとネット	2022年10月19日掲載
⑫	沖縄県・宜野湾市 HP	2022年10月24日掲載
⑬	週刊レキオへの掲載	2022年11月3日掲載
⑭	週刊ほ～むぶらざ	2022年11月3日掲載
⑮	宜野湾市自治会への配布	23地区



普天間飛行場跡地利用県民フォーラム

# 普天間飛行場 未来予想図2.0

令和4年 **11/5** (土)  
14:00 ~ 16:10  
(開場 13:30)

会場：沖繩コンベンションセンター  
会議棟 A1



## プログラム

開会あいさつ (沖縄県・宜野湾市)

**第1部**  
基調講演  
14:10 ~ 15:00

沖縄のポテンシャルを生かした  
価値ある跡地利用にむけて

講師：**涌井 史郎** 氏 (東京都市大学 特別教授)

休憩 普天間飛行場の跡地利用計画策定に向けた  
「全体計画の中間取りまとめ(第2回)」のプロモーションビデオ上映


**第2部**  
パネル  
ディスカッション  
15:10 ~ 16:10

魅力的なまちを  
私たちの手で育てていくには

コーディネーター： まちづくりファシリテーター  
**石垣 綾音** 氏


コメンテーター： 東京都市大学 特別教授  
**涌井 史郎** 氏

パネリスト：  
 沖縄持続的発展 宜野湾市軍用地等 琉球大学学生/  
 研究所 所長 地主会会長 OragaNect  
**真喜屋 美樹** 氏 **又吉 信一** 氏 合同会社代表  
**福原 海里** 氏



**入場無料**  
**定員 250 名**  
**オンライン同時配信**


お申し込みはこちら【事前予約制】※



オンラインでの参加を希望される方も事前予約をお願いします。  
オンライン参加用のURLについては、事務局より後日ご連絡いたします。  
<https://forms.office.com/v?nR9NCKtCh>

**パネル展 同時開催**  
会場：会議棟 A2  
11:00 ~ 17:30

「全体計画の中間取りまとめ(第2回)」の考え方を解説したパネル展を開催します！お子様向けのパネルや昔の集落の様子が見られる模型、未来のまちを体験できるコーナーなどもご用意。ぜひお気軽にお越しください！



※事前にお申込みをされない場合でも参加できますが、席に限りがあるため入場できない場合があります。

**主催** 沖縄県/宜野湾市 **問合せ** 沖縄県 企画部 県土・跡地利用対策課 跡地利用推進班 TEL.098-866-2040  
宜野湾市 基地政策部 まち未来課 基地跡地計画係 TEL.098-893-4401

図IV-32 チラシ (表面)

## 県民フォーラムの開催について

沖縄県と宜野湾市では、返還が合意されている普天間飛行場の跡地利用に向けた検討を進めています。このたび、その検討結果を取りまとめた、普天間飛行場の跡地利用計画策定に向けた「全体計画の中間取りまとめ(第2回)」<sup>\*</sup>を策定しました。

これからも県民市民や地権者、未来を担う若者たちから多くの意見を聴きつつ検討を重ね、時代や社会の変化に柔軟に対応しながら更新を図っていく予定です。

みんなで沖縄の発展につながる普天間飛行場の跡地利用を考えていきましょう。

※跡地利用計画策定に向けた中間的な成果となる「全体計画の中間取りまとめ」を平成25年3月に策定し、それ以降の検討経過、社会状況等の変化を踏まえ、令和4年7月に「全体計画の中間取りまとめ(第2回)」を策定しました。

### プログラム

13:30 開場

14:00 開演・主催者挨拶 (沖縄県・宜野湾市)

14:10 **第1部 基調講演** 東京都市大学 特別教授  
**涌井 史郎 氏**  
 沖縄のポテンシャルを生かした  
 価値ある跡地利用にむけて

15:00 休憩 「全体計画の中間取りまとめ(第2回)」の  
 プロモーションビデオ上映

15:10 **第2部 パネルディスカッション**  
 魅力的なまちを  
 私たちの手で育てていくには

16:10 終了



### 講演者及びパネリストのプロフィール

#### 基調講演講師・コメンテーター



**涌井 史郎 氏**  
 TBS「サンデーモーニング」等でコメンテーターとしても活躍。日本の国立公園を世界水準とすることを目標とした「国立公園満喫プロジェクト」の有識者として座長を務める。

#### コーディネーター



**石垣 綾音 氏**  
 まちづくりファシリテーター。「人と土地をつなぐ、コミュニティをエンパワメントする」をモットーに、「こみゆとば」として県内各分野の個人や団体とコミュニティと場づくりに関する活動を行なう。

#### パネリスト



**真喜屋 美樹 氏**  
 名桜大学准教授を経て現職。専門は都市政策。普天間飛行場跡地利用計画中間取りまとめ(第2回)検討委員会委員、浦添市軍用地跡地利用計画審議委員会会長。



**又吉 信一 氏**  
 宜野湾市軍用地等地主会会長、(一社)沖縄県軍用地等地主会連合会会長、普天間飛行場跡地利用計画中間取りまとめ(第2回)検討委員会委員。



**福原 海里 氏**  
 琉球大学国際地域創造学部在学。OragaNect合同会社を設立し、「農家のあらゆるところにマネタイズポイントをつくる」事業を展開している。

普天間飛行場の跡地利用計画に向けた検討に関して、くわしくは、「普天間未来予想図」ホームページをご覧ください。



図IV-33 チラシ(裏面)

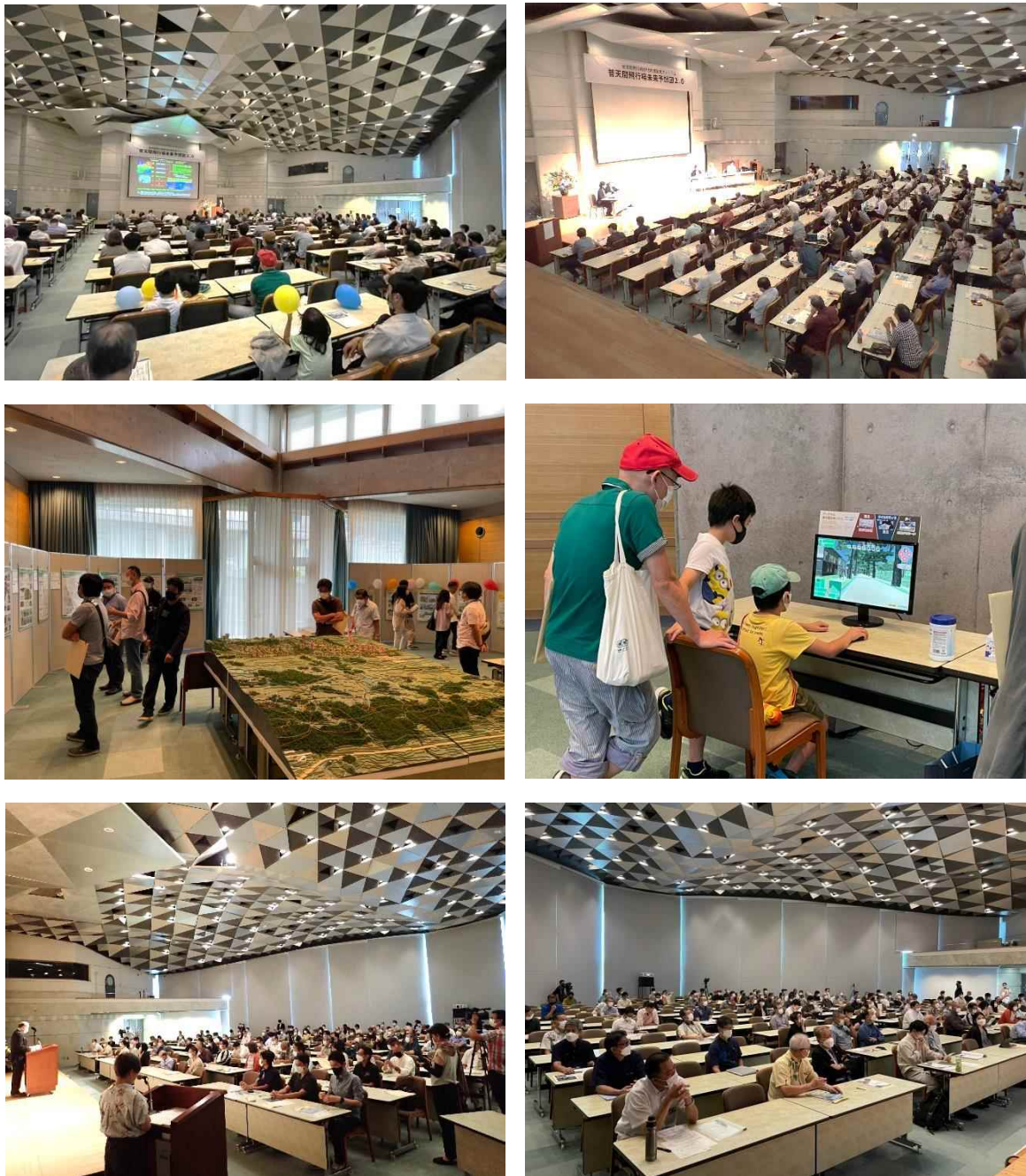


(2) 実施報告

来場者数、アンケート回収数は以下の通りである。

表IV-3 来場者数及びアンケート回収数・回収率

	会場	オンライン	合計
来場者数	137	52	189
アンケート回収数	110	9	119
回収率	80.3%	17.3%	63.0%



図IV-34 会場風景

## 1) 基調講演の概要

### [沖縄経済の発展について]

- ・最も肝心な沖縄らしさが忘れ去られている印象を受ける。NBS (Nature-based Solutions: 自然を基盤とした解決策)、専門用語で「地霊学」と言うが、「土地に霊が住んでいるから、その土地の言うことをよく聞け」、こういった教えを一番大事にできた沖縄が、それを忘れてしまっている。
- ・那覇から名護に至る国道 58 号沿いはビルで埋め尽くされており、空と海にしか沖縄らしさを見ることができない。海陸そして空の一体性というのがどんどん失われている印象を受ける。

### [自然との共生について]

- ・我々は生態系サービスがもたらす自然の恩恵なくしては存在できないことを、あらためて認識する必要がある。
- ・プラネタリーバウンダリー（地球の限界）により成長戦略を取ることが難しくなる。自然と対話ができる環境づくりが求められる。
- ・コロナや自然災害の激甚化は地球からの警告である。SDGs の 17 の目標は地球で生きていく上でのマナーであり、マナーを身に着けた上で、どのようにして自然と共生するのか考える必要がある。
- ・気象災害、例えば海流の変化や大気の変化は二酸化炭素の削減により大きく緩和することが可能。自然を資本として考え、経済の中に取り入れることで、災害に対するレジリエンス性が高い地域になり、グリーンインフラ、DX (デジタルトランスフォーメーション) の調和を図ることができる。

### [普天間飛行場について]

- ・普天間飛行場には拝所や井戸といった、スピリチュアルな資源があり、普天満宮まで松並木を植栽し琉球王が祭祀に赴いた地である。中心となる穴、風水学で言う「きけつ」は普天間であると考えている。
- ・琉球王国時代に蔡温は風水を取り入れ、自然との共生を図ってきた。蔡温を生んだ沖縄で開発という一本槍で良いのか。

### [跡地利用計画について]

- ・普天間の地区特性をさらに濃密に計画に投影し、現在価値より将来価値を創出する考え方に期待したい。
- ・普天間の跡地は世界のモデルディスプレイエリアとして「環境と文化により多様性を尊び世界に対して優れた環境と文化、そして平和のモデルを示すことにより栄える地」として跡地利用を考えてほしい。
- ・デジタル革命の浸透と環境への配慮、そしてデジタルがもたらすストレスの低減と創造性に寄与する公園緑地を核として、ZEB (ネット・ゼロ・エネルギー・ビル) なのは当然とした環境不動産価値を重視した開発、そして業務床がこれからますます求められる事を踏まえた計画であってほしい。
- ・自動車を中心とした交通計画とはせず、公共交通ならびにパーソナルモビリティを導入した、「人々の出会いとグリーンコミュニティ形成が生じやすい空間」といった方向性としたい。



- ・文化、歴史的な伝統はお金をかけても作れるものではない。宝だと思いを中心とした沖縄のスピリチュアルゾーン、あるいは哲学を実行していくゾーンに変えてほしいというのが私の考えである。

## 2) パネルディスカッションの概要

### (涌井 史郎 氏)

- ・長いスパンの中で価値を失わない、むしろ価値を上げていくという考え方が非常に大事である。環境は将来の不動産価値を支えるということを認識する必要がある。
- ・これからは魅力だけでは足りない。これから作る必要があるのはその土地が持つ地力である。その土地にどのくらい惹きつける力があるのか、地力がないと、世界中の魅力との競争になる。その土地にしかない価値を生み出すことが非常に重要である。
- ・自然の特性、土地の持っている特性がマッチングしないことには地力を引き出せない。この土地が持つ価値を自覚しないと光らない。
- ・無価値の価値化という現象がこれから起きる。今まで価値がない、経済価値がないと思っていたところに実は経済価値があるという時代が必ず来る。土地の要するに特性である。それを大事にしていきたい。

### (福原 海里 氏)

- ・教育面に力を入れて頂きたい。多くの企業や研究機関を誘致するとのことであれば、子ども達の視野を広げることに繋がる。
- ・飲食店から出た生ゴミを堆肥化して畑に戻す、普天間飛行場跡地だけで循環するような循環型都市をつくってはどうか。
- ・一口に緑化といっても色々な考え方がある。食料問題を見据え、市民一人ひとりが、自分たちで生産することに着目した緑化や家庭菜園の面積も有機栽培の面積に含め、100年後も続く農業環境をつくる意味での緑化など、一段上の緑化のあり方について考える必要がある。

### (又吉 信一 氏)

- ・我々地権者が合意形成をどのように進めていくのか、それが大きな課題である。
- ・普天間飛行場 476ha の中に 100ha の国営公園を設置することを地主会総会で決議している。水と緑、そしてその中に歴史と文化も反映しながら、いかにして付加価値をつけていくかが重要である。
- ・返還と跡地利用は両輪であり、地権者が安心して行政と一緒にまちづくりを行うのが我々地権者の役目であると考えている。
- ・宜野湾市にはたくさんの伝統文化がある。将来の大きな宝物になるという共通認識を持ち、今できることは何か共通認識しながら、未来へ繋げていくことが重要である。
- ・持続可能な環境の循環等、基本路線を決めて、その後は時代に応じて柔軟に対応できるようにしておく必要がある。基本路線を継承していくことが責務であると考えている。

### (真喜屋 美樹 氏)

- ・広大な跡地は当然地権者の皆さんに所有権があるが、同時に私たち県民みんなが訪れて生活する空間でもあると考える。どういう未来を描きたいのか、ハード面、ソフト面を含めて皆で考えていく必要がある。

- ・ハンビーやアメリカンビレッジ、ライカム、パルコシティは跡地利用のランドマークのようになっている。今世界の潮流は環境が軸となっており、独自の認証制度や条例をつくることで、魅力的なまちをつくっていく必要がある。
- ・地権者の利益にも十分配慮し、宜野湾市全体として跡地利用によってどのように市民に利益を還元できるのか。県としても、沖縄県全体を偏りなく発展させるために普天間という広大な空間にどんな役割を持たせてどんな発展プランを描くのか、周辺地域とのバランスはどうなっているのか、再開発によって得られるメリットをどのように県民の利益と結びつけるのかというような積極的な関わりが重要である。
- ・他の跡地利用の手法をそのまま利用することはできない。沖縄の持つ地力、オリジナリティを深掘して、そこにしかないものを作っていくことが大事である。
- ・小さな試みかもしれないが、市民一人ひとりが集まり勉強会・学習会をするということは実は最も現実的であると考える。自分達が住むまちはどんなまちにしたいのか考えていくことが重要である。

### 3) 事前予約における参加者意見について

フォーラムの参加を希望する方には QR コードまたは URL 読み取りによる事前予約制とし、申込フォームを Microsoft Forms を活用し作成した。

参加形式、メールアドレス（フォーラムの詳細を後日案内）を確認することで、参加者数を把握した。また、パネルディスカッションの際、参加者意見として紹介するため、登壇者に聞いてみたいご質問、跡地利用に期待することを事前予約の段階で確認し、パネルディスカッションにおけるコーディネートの展開材料とした。

The image shows a Microsoft Forms application form with the following sections:

- 1. 希望する参加形式\***
  - 会場参加
  - オンライン参加
- 2. メールアドレス**

フォーラムの詳細を後日、案内させていただきます。  
オンライン参加を希望される方には、参加用URLを後日、送付致します。  
※「[hutenmajimukyoku@gmail.com](mailto:hutenmajimukyoku@gmail.com)」からのメールが届くようにメールの設定をお願いします。

.

回答を入力してください
- 3. メールアドレス（確認用）**

念のため、改めてメールアドレスをご入力ください。\*

回答を入力してください
- 4. 〇登壇者に聞いてみたいご質問があればお書きください。**

パネルディスカッションの中で参加者のご意見として紹介させて頂く予定です。  
(但し、全てのご意見を紹介するものではありません。)

回答を入力してください
- 5. 〇跡地利用に期待することがあればお書きください。**

回答を入力してください

図IV-35 申込フォーム画面



## ① 「登壇者に聞いてみたい質問」、「跡地利用に期待すること」まとめ

## 登壇者に聞いてみたい質問

- ・ 中間取りまとめを大きく変えた理由は何か。
- ・ 宜野湾市の豊富な湧水の源と言われる普天間基地は約7割が緑地帯ですが返還後の整備はどのようにされるのかお聞きしたいです。
- ・ これほど壮大なプロジェクトにあたって、誰が指揮者（最終責任者）となるべきか。市にできるのか。県か、国か。
- ・ 跡地利用に向けて今後どのようなことに優先して取り組むべきか。
- ・ 現在の軍用地料を超える収入を生み出せるかが跡地利用の課題だと思うが、何かアイデアはあるか。
- ・ 今後、本格的な高齢化社会を迎える中で公共交通を充実させたコンパクトシティの充実を図る必要があるが、今後どのような取組が必要となるか。
- ・ 実現できる未来予測をどのくらい先と考えているのか？その時期によってその時代に合った展開となると思うのですが。
- ・ 沖縄中南部都市圏では一定程度の規模を有する緑地が少ない現状が見受けられる。普天間飛行場跡地に都市公園として「国立公園」の誘致が挙げられているが可能性についてお聞きしたい。
- ・ 涌井氏へ、普天間飛行場は民有地が多いため、跡地利用の際に公園緑地などのゆとりある空間があまり取れないという課題に対する解決方法は。
- ・ 沖縄本島では自然的土地利用よりも都市的土地利用が過剰なのではないかと感じます。いわゆる持続可能な発展を前提とした場合、適正な人口規模、市街地の規模はどのくらいとお考えでしょうか。
- ・ 那覇空港から、おもろまち、キンザー跡地・浦添西海岸、普天間、北谷まで、一体でのまちづくりができると、より魅力、価値が高まると想像します。どうすれば一体で取り組むことができますか。このような場合、どのような枠組みが必要なのでしょうか。
- ・ 普天間基地の緑地で浸透した雨水などがその周辺、例えば大山の田んぼ、森川公園の泉等、周辺の湧き水の源水となっています。現在跡地利用の計画が進められている西普天間地区のような開発が進むと湧き水や田んぼの水がかれてしまう事になりますが、この辺りの考え方を教えてください。
- ・ 普天間飛行場であるということを活かした活用が考えられるでしょうか。また、具体方策があればご教授願いたい。
- ・ 宜野湾市軍用地等地主会として、どのような跡地利用を望んでいるのかを聞きたい。
- ・ 跡地に土地を持っていない人でも関わられるようなまちづくりとして、何が考えられますか。愛着を持てる地域を育てていくには、どのような方法がありますか。
- ・ カーボンニュートラルと開発。

## 跡地利用に期待すること

- ・ 付加価値高まることを期待します。
- ・ 西海岸地域とリンクした観光施設の建設。
- ・ 地主以外の市民、県民の意見を広くとりいれてほしい。
- ・ 沖縄の振興にとどまらず日本の発展及び世界の平和に貢献できる跡地利用に期待しています。

- ・庶民の暮らしの場であったからこそ、跡地利用においては人類に普遍的な価値を体現し、発信する場となって欲しい。
- ・跡地開発による経済活性化。新都心のような主要な街ができることによる交通集中の分散。（那覇への交通集中への負担減）
- ・県土を東西に連絡する幹線道路を位置付けることによる、交通移動の円滑化。（県内は強固な東西道路が、少ないため）
- ・早期に返還され、早く跡利用に取り組めるよう期待している。
- ・市のシンボルとなる建物の建築、交通渋滞緩和の実現。
- ・沖縄県が力強く発展できる基盤となることを期待します。
- ・沖縄中南部都市圏内における基地跡地利用状況をみると那覇市新都心地域に代表されるように地権者等の意向で大型スーパーの誘致を狙った商業業務地域の指定が多々見られる。普天間飛行場跡地については中南部都市圏の中心に位置する事から土地利用についてはしっかりと検討する必要があると思う。
- ・大規模国営公園と公園 PFI 事業によるまちづくり事業。
- ・宜野湾市の緑の基本計画を踏まえた、緑豊かな大規模公園の配置と環境にやさしいエコロジカルな公共交通システムの導入を期待しています。
- ・国際的に開かれた都市になることは歓迎すべきであるが、地元民が近寄りやすい街にはなって欲しくない。
- ・「自分の土地が高く売れるか否か」という視点から、地主のみなさんが解放される跡地利用プロセスが必要だと思います。沖縄市のアリーナが「ゼロエネルギーアリーナ」と謳っていながら、専門家から見るとそれとは程遠い施設になっているので、謳えばいいものでもないですが、ゼロカーボンシティを本気で作るとか、エネルギー地域経済好循環を実現させるとか、世界中から「真似したい」と思われるようなまちづくりをしませんか？
- ・宜野湾市では、所々に緑（緑地）がありますが、ほとんどが市街地化されています。唯一自然の森や緑が残っているのは普天間基地及びその周辺の米軍施設内だけとなっている状況です。普天間基地の跡地利用については、アクセス性の高い都市型の大規模公園（森・緑地）の整備し、一日過ごせる様な観光資源となる事を期待しております。
- ・人材育成等のソフト部分に係る資金導入を図ることにより、基地跡地について、次世代のための有効活用がなされるよう跡地利用計画の具体案が策定されることを期待。
- ・宜野湾市の緑の基本計画に基づいた緑豊かな大規模公園の整備を期待しています。また、環境にやさしいエコな地区内公共交通ネットワークの整備を期待しています。
- ・宜野湾市民（地権者）の意見だけではなく、県民の意見も反映できるような跡地利用計画にしてほしい。
- ・現下の世界情勢では、基地返還のタイミングを見通す事は困難ですが、跡地利用計画の策定に向けては不断の取組が必要かと思えます。
- ・たくさんの方が集まれる場所になればいいなと思えます。
- ・若い人からお年寄りまで1日中楽しめる場所になって欲しいです。
- ・画一的な土地利用ではなく、この地域だからこそその魅力を発揮できる場所になってほしいです。
- ・何処（県外、県内）にでもある様な街並みにならない様にして欲しい。
- ・世界の模範となる低炭素社会と平和都市の具現化。

②パネルディスカッションに向けた意見整理

事前予約の段階で頂いた「登壇者に聞いてみたい質問」、「跡地利用に期待すること」を踏まえ、下表の通り整理した。

パネリスト向けの質問		
No.	登壇者に聞いてみたい質問	関連するコメント
1	今後、本格的な高齢化社会を迎える中で公共交通を充実させたコンパクトシティの充実を図る必要があるが、今後どのような取組が必要となるか。	新都心のような主要な街ができることによる交通集中の分散。(那覇への交通集中への負担減) 県土を東西に連絡する幹線道路を位置付けることによる、交通移動の円滑化。(県内は強固な東西道路が、少ないため)
2	沖縄本島では自然的土地利用よりも都市的土地利用が過剰なのではないかと感じます。いわゆる持続可能な発展を前提とした場合、適正な人口規模、市街地の規模はどのくらいとお考えでしょうか。	沖縄中南部都市圏内における基地跡地利用状況をみると那覇市新都心地域に代表されるように地権者等の意向で大型スーパーの誘致を狙った商業業務地域の指定が多々見られる。普天間飛行場跡地については中南部都市圏の中心に位置する事から土地利用についてはしっかりと検討する必要があると思う。 宜野湾市では、所々に緑(緑地)がありますが、ほとんどが市街地化されています。唯一自然の森や緑が残っているのは普天間基地及びその周辺の米軍施設内だけとなっている状況です。 普天間基地の跡地利用については、アクセス性の高い都市型の大規模公園(森・緑地)の整備し、一日過ごせる様な観光資源となる事を期待しております。
3	那覇空港から、おもろまち、キンザー跡地・浦添西海岸、普天間、北谷まで、一体でのまちづくりができると、より魅力、価値が高まると想像します。どうすれば一体で取り組むことができますか?このような場合、どのような枠組みが必要なのでしょう。	西海岸地域とリンクした観光施設の建設。
4	跡地利用に向けて今後どのようなことに優先して取り組むべきか。	—



パネリスト向けの質問		
No.	登壇者に聞いてみたい質問	関連するコメント
5	現在の軍用地料を超える収入を生み出せるかが跡利用の課題だと思うが、何かアイデアはあるか。	「自分の土地が高く売れるか否か」という視点から、地主のみなさんが開放される跡地利用プロセスが必要だと思います。沖縄市のアリーナが「ゼロエネルギーアリーナ」と謳っていながら、専門家から見るとそれとは程遠い施設になっているので、謳えばいいものでもないですが、ゼロカーボンシティを本気で作るとか、エネルギー地域経済好循環を実現させるとか、世界中から「真似したい」と思われるようなまちづくりをしませんか。

## 4) アンケート結果

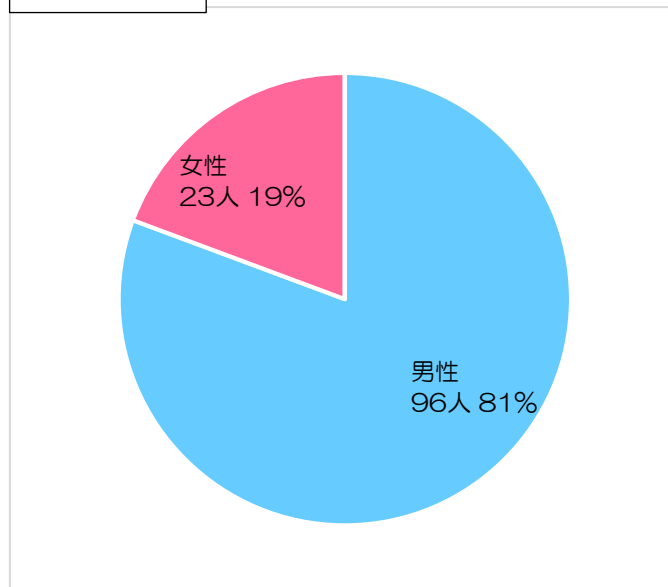
### 属性について

設問 1：性別    設問 2：年齢    設問 3：居住地

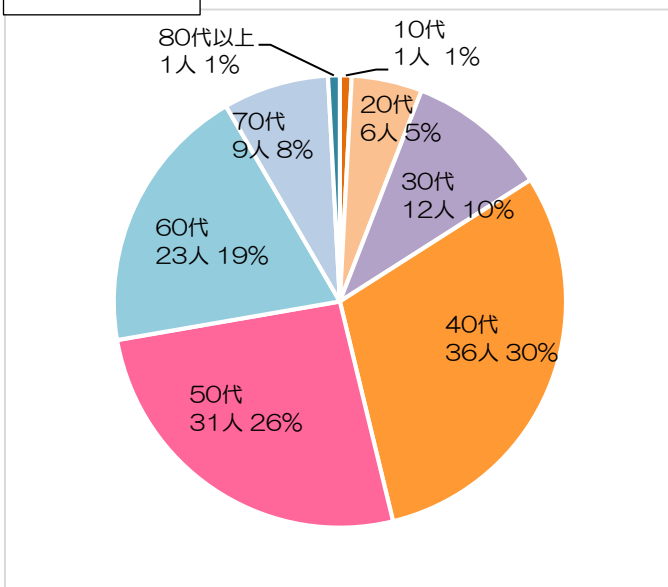
年齢については、40代が30%と最も多く、次いで50代26%、60代19%の順となっており、跡地利用計画に特に興味関心が高いと思われる地権者及び関係者の参加が多かったと考えられる。

また、居住地については、宜野湾市が36%と最も多く、次いで近隣の那覇市26%、浦添市12%の順となっている。オンライン同時配信を行ったことから、地元の方々をはじめ、広範囲に居住している県民へと情報発信ができたと考える。

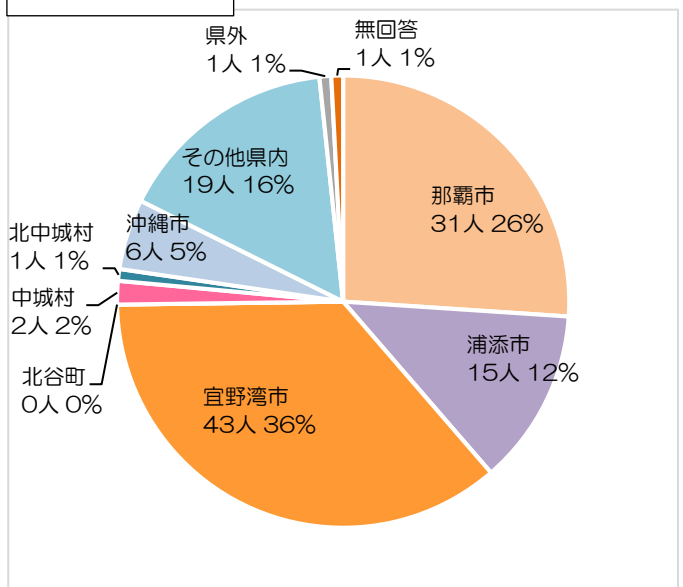
設問 1：性別



設問 2：年齢



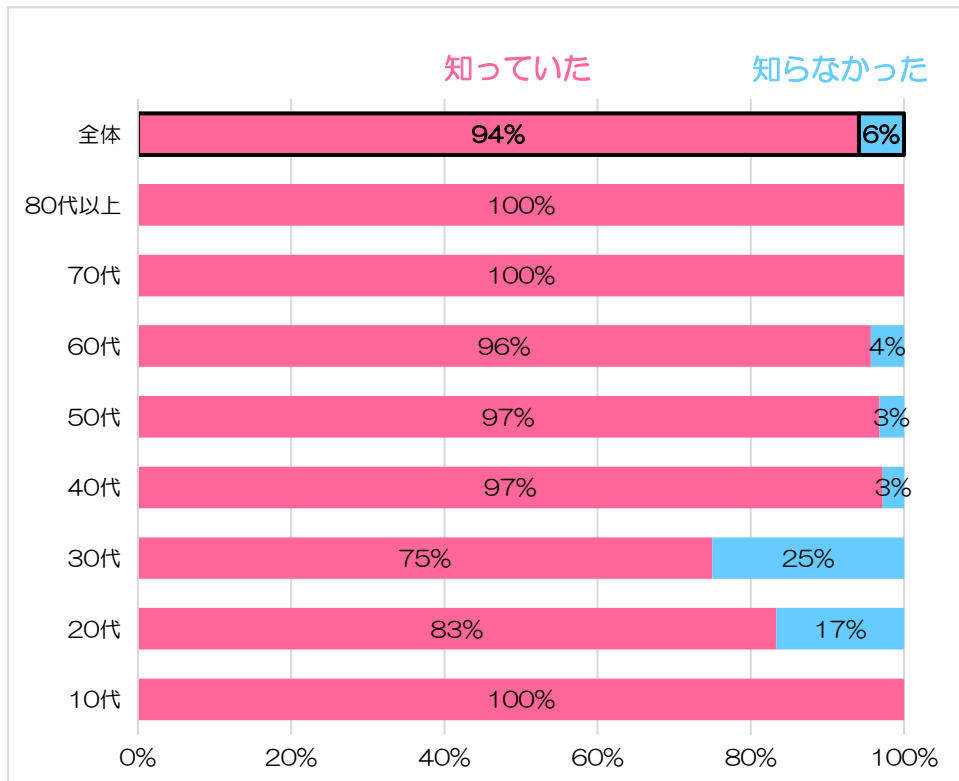
設問 3：居住地



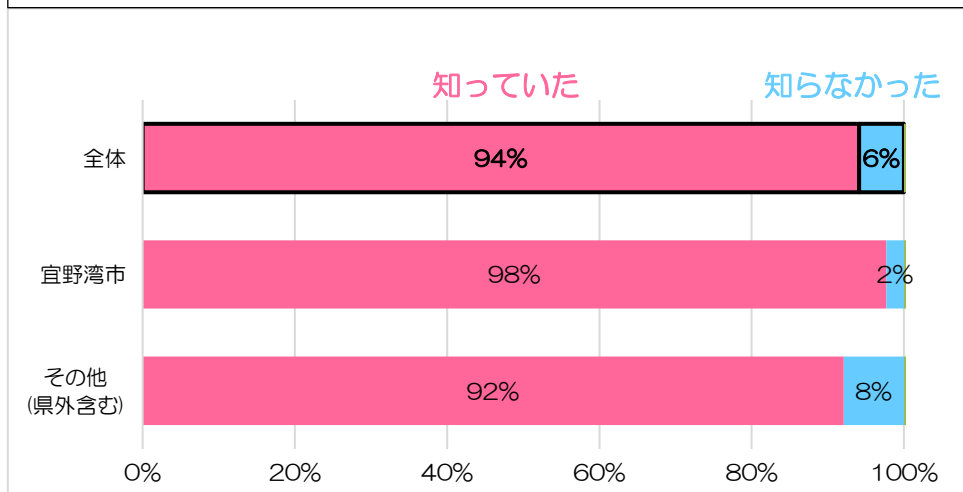
普天間飛行場に関する認知度について

設問 4 : 返還が予定されている普天間飛行場の跡地利用計画策定に向けた検討が行われていることを知っていましたか？

普天間飛行場の「知っている」人が最も多く 94%、宜野湾市とその他市町村（県外含む）の比較でも、宜野湾市 98%、その他市町村（県外含む） 92%となっており、認知度に大きな違いは見られなかった。但し今回は過年度の巡回パネル展と異なり、興味・関心を持って参加された来場者へのアンケートであったことから、必然的に認知度が高くなった可能性があり、今後も引き続き、県内外に向けて広く周知を行っていく必要があると考えられる。



宜野湾市とその他市町村(県外含む)の比較



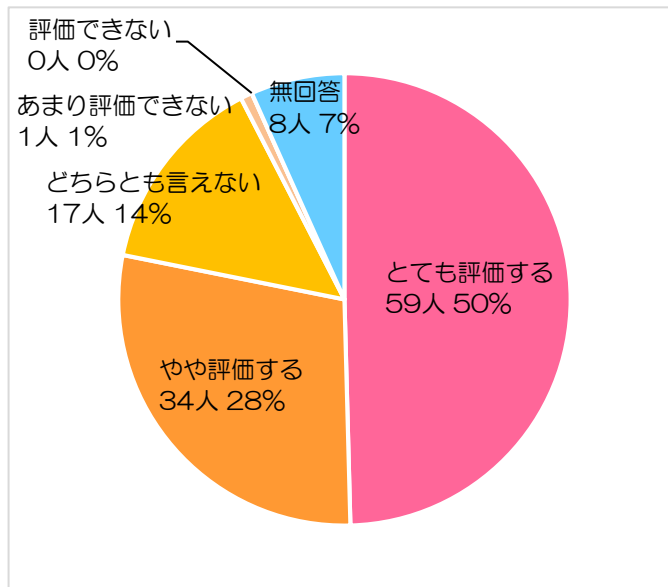


跡地利用に関する取組への評価について

設問 5：跡地利用に関する取組についてどう思いますか？

跡地利用に関する取組への評価としては、「とても評価する」が50%と最も多かった。「評価する（とても評価する・やや評価する）」と回答した人は78%、「評価しない（あまり評価できない・評価できない）」と回答した人は1%であった。

無回答を除くと、跡地利用への取組に「肯定的な評価（とても評価する・やや評価する）」をする人は84%となっている。



	回答数	割合
とても評価する	59	50%
やや評価する	34	29%
どちらとも言えない	17	14%
あまり評価できない	1	1%
評価できない	0	0%
無回答	8	7%
合計	119	100.0%

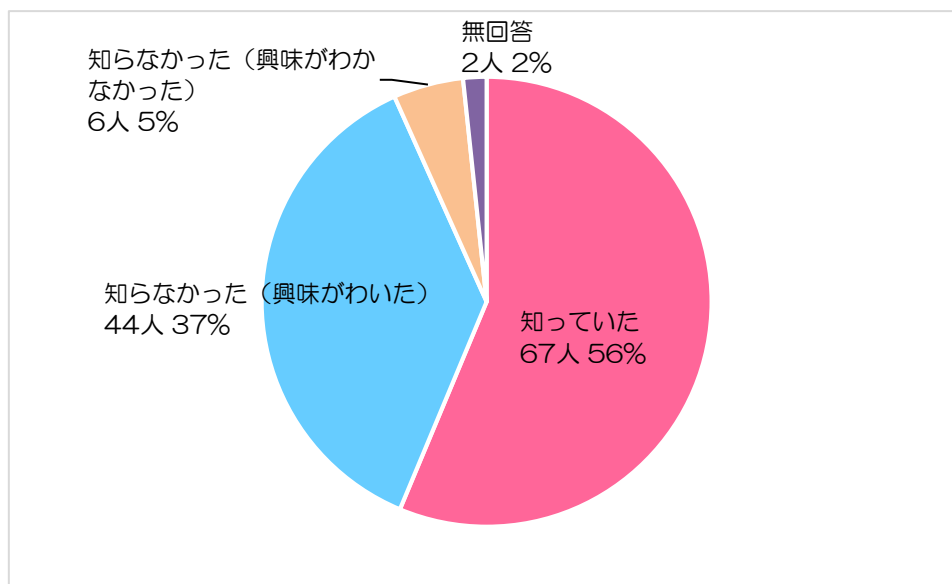
※無回答を除く

	回答数	割合
とても評価する	59	53%
やや評価する	34	31%
どちらとも言えない	17	15%
あまり評価できない	1	1%
評価できない	0	0%
合計	111	100.0%

HP「普天間未来予想図」の認知度について

設問 6：普天間飛行場の跡地利用に関する情報を発信している HP があることを知っていましたか？

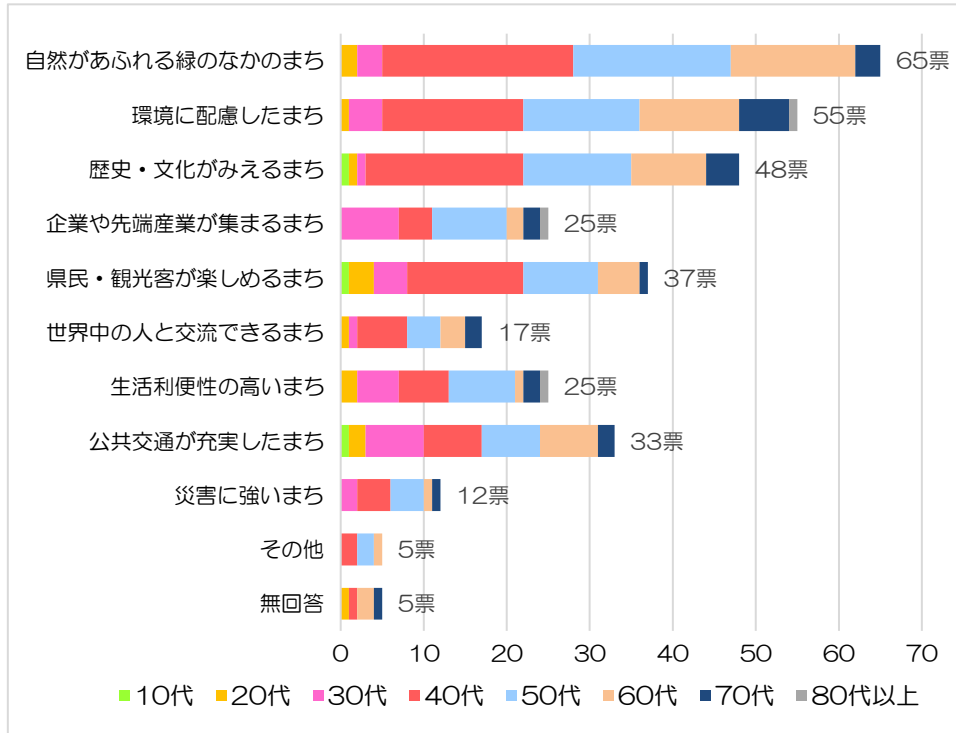
ホームページの存在を「知っていた人」は56%、知らなかったと回答している人のうち、「興味がわいた」と回答している人が37%であることから、今後、HPの存在を広く発信することで、HPの閲覧者増が期待できると考える。



期待する跡地のまち像について

設問 7：跡地がどんなまちになったらよいと思いますか？（3つまで選択）

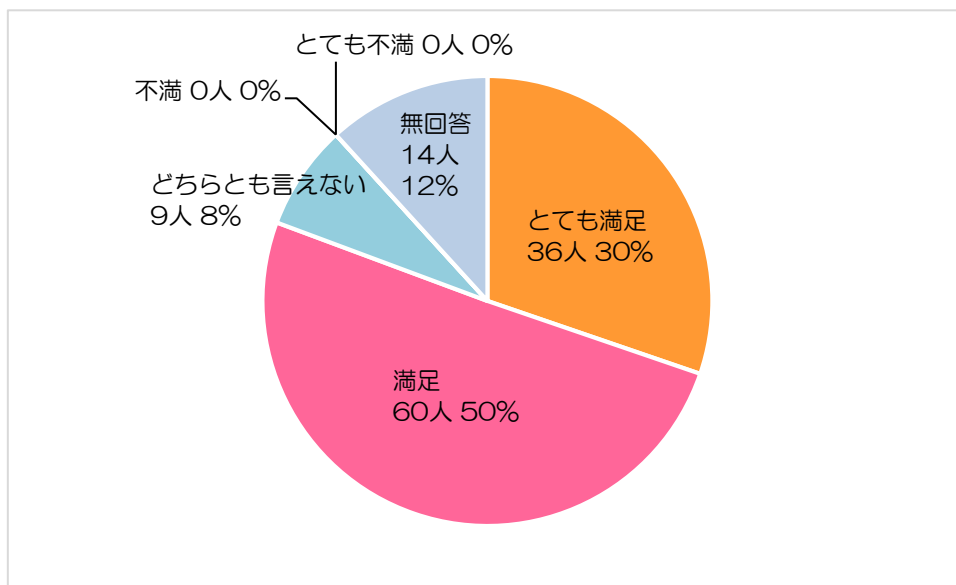
「自然があふれる緑のなかのまち」が65票と最も多く、次いで「環境に配慮したまち」55票、「歴史・文化がみえるまち」48票となっており、自然環境、跡地の歴史・文化を大事にしたまちづくりを求める回答者が多かった。



県民フォーラム（パネル展含む）の感想について

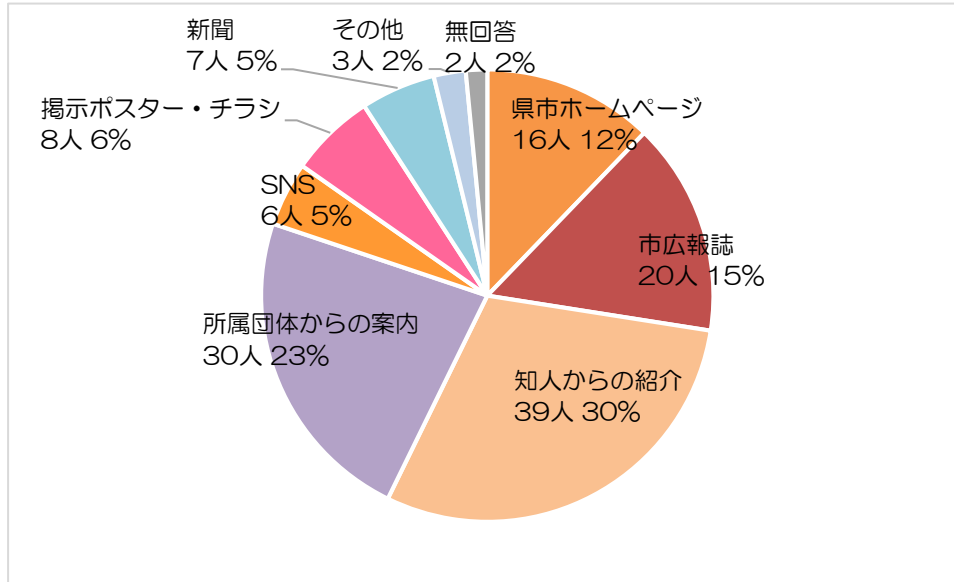
設問 8：フォーラム全体の満足度についてお聞かせください。

フォーラムの感想については、「満足」が50%と最も多く、「満足（とても満足・満足）」と回答した人は全体の80%を占めていた。



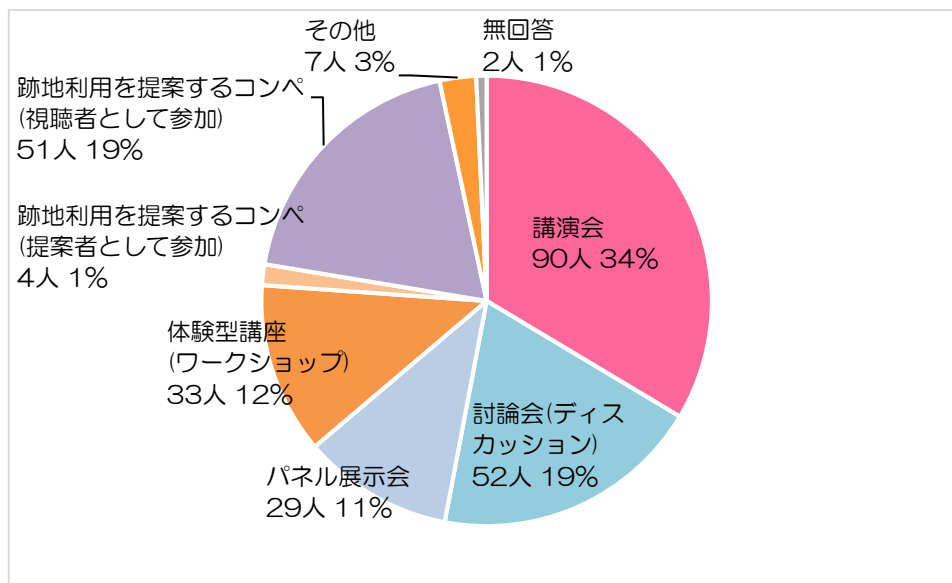
**設問9：フォーラム参加のきっかけは何ですか？**

フォーラム参加のきっかけについては、「知人からの紹介」が30%と最も高く、次いで「所属団体からの案内」23%、「市広報誌」15%となっており、掲示ポスター・チラシによる広報活動と共に、今後も積極的に関係者による周知活動が重要であると思われる。



**設問10：今後、どのような情報発信イベントがあれば参加したいと思いますか？  
(3つまで選択)**

今後求める情報発信イベントについては、「講演会」34%が最も高く、次いで「討論会(ディスカッション)」19%、「跡地利用を提案するコンペ(視聴者として参加)」19%、となり、“見る”ではなく“聞く”側として参加を希望する回答者が多かった。





## 設問 11 : その他ご意見・ご感想

## ■ 跡地利用の方向性について

- ・「改正地球温暖化対策推進法」のモデル地域に指定してもらいたい。
- ・おもしろまちで一番よいところは、中央の公園だと思う。商業地域だけが良いのではない。普天間基地返還後に商業施設をつくるのではなく、普天間に来て良かった、もう一度行きたいと思う町にしてほしい。まだ先は見えないが楽しみです。その土地の力、大事にしたいですね。「今生きている私達の責任」いい話です。
- ・涌井先生の普天間における開発において、「埋めつくさない開発」の発想は大変すばらしいと思えました。また、未来への開発余地を残すということも感銘を受けました。
- ・これまで返還された基地の跡地がどうなっているのか考えると、確かに商業中心もしくは観光中心だった気がしました。普天間についてはどうなっていくか興味がありました。本日はありがとうございました。
- ・第1部の涌井史郎氏の基調講演は経済発展や一極集中に偏った日本の構造が、本来沖縄らしい文化を持つ本県にも侵入し、独創性が失われてしまっていると指摘して頂いた。普天間基地のまちづくりは沖縄（琉球）の本質を再構築できるまちづくりにすべきだと強く感じた。第2部のパネルディスカッションも、3人のパネリスト及びコーディネーターも大変素晴らしく、各々の得意分野に根差した意見、知見を持ち発信して頂いた。日本及び世界の観光地等が様々な魅力を競っているが、これからは地力を増す努力をすべきという涌井氏の提言は大変参考になった。
- ・広大な基地のある沖縄にとって、返還地の跡地利用計画もとても重要だが、スプロールした既存市街の将来像をしっかりとおさえないといけない。なぜなら、人口が減る時代になり、一部の人々はよりよくなった基地跡地に移動するだろうだろうが、既存市街が虫くい状態となりスラム化する危険性がある。既存市街地をどうするかという問題点をしっかりと考えないといけない。（これまでの基地跡地利用は、戦後沖縄の街、都市のスプロールでしかなかったのではないか。しっかりと反省の上で今後の基地跡地を考えるのが重要である）
- ・内地の企業を参入可とする場合、利用し尽くす。緑を大きく取り、環境を重視する。空手道場（首里手、泊手等の各流派）を集積した地区を造る。（沖縄空手のコア）ショッピングモールはもう止めよう。
- ・涌井先生の講演の中やパネルディスカッションでの真喜屋先生のお話にも「沖縄らしさ」という事がありました。近年沖縄の風景はどこも同じ様、本土の様、とまさに感じていました。是非、普天間飛行場跡地では、近年のまちづくりと異なる「沖縄らしさ」を感じる街づくりを期待しています。
- ・環境に配慮した跡地利用とあわせて、国を連携して、国連機関や世界的な規模のNGO等の支部を誘致するなど、平和・国際交流のシンボルとしての跡地利用とまちづくりもご検討いただきたいと思います。
- ・涌井先生、真喜屋先生がおっしゃってるような、住民本意、沖縄の自然、風土、歴史を、今一度重視して、沖縄の住民の幸福の上に、世界の最先端と繋がる地域とすることが大切であるとわかりました。

## ■ 地下空洞の活用

- ・まちづくりに地下利用も検討した方が有効活用や安全対策し、隣国からのミサイル被害対策（公園にシェルター設置等）につながるのでは？

### ■ 歴史特性を活かしたまちづくり

- ・ 沖縄中南部都市圏に不足する一団の都市公園、緑地、戦前の田園風景等の整備をしっかりと行って欲しい。
- ・ 琉球王国時代には、北部方面への街道には、松並木があり道しるべとなっていた。「丘の1本松」にも代表される風景の整備を期待する。
- ・ 街を散策して楽しくなるような歴史街道やウタキ等のストーリーを感じながら、歩ける街になってほしい。この先の社会の変化に応じて柔軟に計画を見直しつつ対応して行ってほしい。
- ・ 環境や文化財に関する調査や計画にも取組まれていると思います。保全、活用した街づくりを期待しています。
- ・ 涌井先生がおっしゃった、沖縄の各地域の固有な歴史と文化（アイデンティティ）をその地域が大事にするとともに、コムーネとしてそれぞれが切磋琢磨し共同体として連携発展していくべきという話に感銘を受けました。

### ■ みどりの中のまちづくり

- ・ 返還された時期には、世の中の情勢が変わっても、環境共生はずっと昔からあるので（重要度は高いまま）、遠い未来でもそのまま利用できると思う。期間と返還の目途が現実的で話がおもしろかった。（遠い未来だが、どう計画、ひきついでいくか考えがあって良かった）
- ・ みどりの中のまちづくりを実現できるように、計画をしっかりと立てていただきたい。
- ・ 跡地利用は利益追求ありきで考えるべきではないのだろうか。例えばイオンモールやららぼーとなどができる事は沖縄で長い苦しみの末に現れてはいけないと思う。又、基地が返還されたらみどりがどんどん減っていく。本当は跡地利用の方向性は、答えが出ているはずだ。
- ・ これまでの町づくり（基地跡地利用）は経済的発展に視点を当てた取組だった様に思う。（それはそれで成果として認められるが）ただこれからの町づくりは、地球環境を考えていくSDGsの視点を大事にしつつ、歴史・文化の共有も含めて進めていかないといけないということを再確認できた講演でした。
- ・ 涌井先生の講演は、これまでのまちづくりの概念を大きく変える重要な示唆をあたえるものでした。コンクリートで囲まれた都市景観が緑で覆われるとの“夢”のようなことが、実現できると、沖縄の大きな財産になると思いました。普天間基地はある意味で無から有を生み出すことですから、先生の考え方が大いに参考になると思いました。これからの社会の大きな課題は、エネルギーと食糧だと思います。コンパクトシティはその課題を解決する一助になるのではないかと思います。ちなみに、福原さんの家庭菜園も緑化という考え方には同意します。昔から沖縄では屋敷内菜園がありました。我が家でもオクラ、パパイヤ、バナナは食卓の人気ものです。
- ・ 跡地利用で新都心や美浜、ライカムとはちがうまちづくりが必要。（消費中心の同じようなまちづくりの商業地だけのまちより、緑の中、公園の中に住んでいるようなまちづくりはどうでしょう）シンガポールはガーデンシティ、マレーシアはフォレストシティのような景観があり、普天間は沖縄らしい景観、風景があるまちづくりをしてほしい。
- ・ ハコモノに頼ると、50年でまちづくりを考えなくてはならないため、自然を中心に100年続くまちづくりを考えてほしい。
- ・ 涌井先生の講演から、DXが進む社会の中で街の中の自然がとても大切になること、環境

という視点がとても大事だと思った。跡地は民有地が多いという特性はあるが、先行取得制度をうまく活用して、自然や公園を多く配置してほしい。それが防災拠点にもなるし、多機能公園として配置してほしい。

- 単なる緑地や公園だけでなく、市民農園を身近なみどりとして普及させていくことはとても良い話だと思います。与えられる緑だけではなく、市民ひとりひとりがみどりを増やす担い手に、自然となるような取組や支援が必要だと思いました。

## ■公共交通

- 返還が遅いからこそ鉄軌道が取りこめる可能性もある。
- 持続可能な環境に優れた街にしたいという事が理解できた。西普天間のような、県内唯一のコンセプト「医療拠点」という強いイメージではなく、よくあるような「環境共生」でインパクトが弱い感じがした。西普天間との連携、交通、道路網の連絡もしくは、両区間の間を区画整理して、一体的に整備して「つなぐ」形で街づくりができるのでは。
- 大型開発と公共交通の必要性がある中、鉄道はいつ出来るのか、少なくともうるま市から名護間の利用客には、中南部に比べて少なすぎると思う。また、普天間跡地開発と鉄道開発の整合を図るのはハードルが高すぎる。復帰前から鉄道を走らせるとして、国鉄を意識して県民の盛り上がりが出てきたと思う。しかし、S62年に国鉄が民営化され、経営主体が決まる訳でもなく、50年経って税金を使って同じことを繰り返しているが、県の発表では、鉄道の必要性があるとのことであり、フィーダーについても市町村自治体においてそれぞれが会社を作り経営するのは難しいと思う。これから先30年、50年必要性の議論で終わるのか、投資効果は今の現状では期待できない。
- 普天間へ公共交通としてのモノレールを浦添より延伸してほしい。

## ■情報発信について

- 世代、立場が異なるパネリストの話が聞けてよかった。普天間のことを思う人がもっと増え、みんなで語れる場をもっと作ってけると良いですね。
- 宜野湾市民として、色々な計画がされていると知り、とても楽しく過ごせました。福原さんみたいに若者がしっかり考えないといけないと感じました。
- 若い人が参加していることが大変いいことだと思います。本日は、ありがとうございます。
- とても楽しかったです。こういうフォーラムはもっと地域住民を交えてやってほしいと思いました。
- 基調講演の涌井史郎氏の話が、興味深く良かった。普天間飛行場跡地利用県民フォーラム開催をもっと増やして頂きたい。
- 本当に素晴らしいフォーラムでした。今後もぜひ続けていってほしいと思います。
- すごく楽しく跡地利用の計画を聞くことができました。文化を大切に、市民のために県民のためになる跡地利用が出来ればいいと思います。もっと若い人々の意見が聞けるといいなと思います。
- 県民フォーラムと関連していただきありがとうございます。普天間飛行場跡地利用について、考える良い機会だと思います。お忙しいとは存じますが、定期的にこういった場を引き続き継続してほしいです。
- 涌井さんの講演はとてもよかった。深めた考えをシリーズで拝聴したい。又、まちづくりに関して、戦後の70年の記憶を消すのではなく、どこかに建物を保存して、後世に伝

えるべきではないのだろうか。

- ・歴史・文化・自然は宝であるということをこれからの若者子ども達に伝え、皆が普天間の跡地を世界に誇れる町づくりができれば良いですね。時間はかかるとは思います、つないでいく！
- ・涌井さんの講演はとても内容のあるものだった。県内紙で連載コラムをして、県民にも大事な視点を気付かせた方がよい。
- ・今後私（一市民）も参加できる仕組みをつくってあげれば良いと思った。地元で（夢を）話してみたい。
- ・涌井先生のまとめの提案文章が頂けたらと思う。
- ・涌井先生の基調講演、とても興味深いものでした。できればレジュメ等があればと思います。
- ・第1部の基地講演は、たいへん興味深い内容でしたが、沖縄のポテンシャルを生かした価値ある跡地利用について具体的な内容がなかった。内容の5%が沖縄では今さらの内容ばかりでは。宜野湾並木街道ではなく普天間街道である。歴史としてしっかり伝えて欲しい。第2部は、本音も出て良かったと思う。普天間飛行場の内に入り、歩いてみると広さがわかります。ディズニーランドの何倍と言われてもわからないですよ。ぜひ飛行場内に入って下さい。
- ・久しぶりの県民フォーラムで、過去何回か参加させて頂いているが、毎回思うことは、事前に1、2週間前に関係資料を配布してもらえれば、開催日まで内容等をチェックし、知識等の再確認出来、有意義な会議になると考えます。次回開催は是非とも検討して頂きたいと思います。
- ・討論会に外国人も参加していただくなど。（国際交流・平和の視点）
- ・パネル展のVRコーナーがよかった。子どもが興味をもっていた。

#### ■跡地利用計画のスケジュールについて

- ・フォーラムの内容は素晴らしかった。ただし、今後のタイムスパンが分かりづらく、いつ整備の見通しが立つのかが不明瞭であるのが残念である。整備を進める中で、いつまで跡地利用、計画を見直していくのか、内容と共に返還後の整備のロードマップも示していくべきである。
- ・環境に配慮した街づくりがテーマの1つになっていたと思う。しかし、普天間飛行場のPFAS汚染に全く触れられていないことが大変気になる。水と緑の公園、オーガニック農業を構想しても、土壌、水自体がPFASで汚染されていたのでは、自由に構想を描くことが果たしてできるのか。返還自体はまだ見通されていない今の時期に、しっかり土壌調査をするべきではないか。
- ・「返還合意」があるので、いつの日か還ってくる時のための跡地利用計画を考えている、というのは良く理解できました。「理」はあるのだと。でも・・・やはり「移転先」のコトが話に出てこないの、どうにもフクザツです。涌井先生のお話はナナメ上から、沖縄、琉球の核心に刺さっている大事な話で、すごかったです。感動しました。

#### ■大規模公園の整備について

- ・普天間基地の辺野古への移設をすすめ、早急にこの跡地利用計画を実現してほしいです。特に大規模都市公園の整備には大変期待しております。



5) 行程計画への反映事項

県民フォーラム意見	行程計画該当箇所
<p>●みどりの中のまちづくりに対する要望</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>みどりの中のまちづくりを実現できるように、計画をしっかりと立てていただきたい</li> <li>跡地利用で新都心や美浜、ライカムとちがうまちづくりが必要（消費中心の同じようなまちづくりの商業地だけのまちより、緑の中、公園の中に住んでいるようなまちづくりはどうでしょう）</li> <li>コンクリートで囲まれた都市景観が緑で覆われるとの“夢”のようなことが、実現できると、沖縄の大きな財産になると思う</li> </ul>	<p>●大規模公園エリアを核とした沖縄振興拠点の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ボーダレスな緑の取組イメージの検討</li> </ul>
<p>●沖縄振興に寄与する土地利用・機能導入の提案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>環境に配慮した跡地利用とあわせて、国と連携して、国連機関や世界的な規模のNGO等の支部を誘致するなど、平和・国際交流のシンボルとしての跡地利用とまちづくりもご検討いただきたい</li> <li>住民本意、沖縄の自然、風土、歴史を、今一度重視して、沖縄の住民の幸福の上に、世界の最先端と繋がる地域とすることが大切</li> </ul>	<p>●大規模公園エリアを核とした沖縄振興拠点の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>振興拠点のあり方、戦略的な導入機能の検討</li> <li>国家プロジェクトとしてふさわしい取組の検討</li> </ul>
<p>●大規模な公園・緑地の整備に対する要望</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大規模都市公園の整備には大変期待している</li> <li>沖縄中南部都市圏に不足する一団の都市公園、緑地の整備をしっかりと行ってほしい</li> <li>跡地は民有地が多いという特性はあるが、先行取得制度をうまく活用して、自然や公園を多く配置してほしい</li> </ul>	<p>●大規模公園エリアを核とした沖縄振興拠点の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大規模公園エリアの整備のあり方検討</li> </ul>
<p>●公共交通のあり方及び周辺市街地との連携のあり方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>返還が遅いからこそ鉄軌道が取りこめる可能性もある</li> <li>西普天間との連携、交通、道路網の連絡もしくは、両区間の間を区画整理して、一体的に整備して「つなぐ」形で街づくりがで</li> </ul>	<p>●周辺インフラや市街地との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新たな交通計画を踏まえた跡地内交通計画の検討</li> </ul>

県民フォーラム意見	行程計画該当箇所
<p>きるのでは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 普天間へ公共交通としてのモノレールを浦添より延伸してほしい</li> </ul>	
<p>●歴史文化資源を活用したまちづくり・風景づくりの考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• これからの町づくりは、地球環境を考えていくSDGsの視点を大事にしつつ、歴史・文化の共有も含めて進めていかないとけない</li> <li>• 戦前の田園風景等の整備をしっかり行ってほしい</li> <li>• 歴史街道やウタキ等のストーリーを感じながら、歩ける街になってほしい</li> <li>• 環境や文化財に関する調査や計画にも取組まれていると思います。保全、活用した街づくりを期待</li> <li>• 普天間基地のまちづくりは沖縄(琉球)の本質を再構築できるまちづくりにすべきだと強く感じた</li> </ul>	<p>●歴史的資源・景観資源の継承</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 歴史文化資源の現状把握及び継承（保存・再生・活用）にかかる課題整理</li> <li>• 活用方策の検討（保全したい箇所の計画への反映を含む）</li> </ul>
<p>●並松街道の整備について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 琉球王国時代には、北部方面への街道には、松並木があり道しるべとなっていた。「丘の1本松」にも代表される風景の整備を期待</li> </ul>	<p>●歴史的資源・景観資源の継承</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 整備イメージ及び整備に向けた取組の検討</li> </ul>
<p>●地域資源の継承・人材育成について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 歴史・文化・自然は宝であるということをこれからの若者子ども達に伝え、皆が普天間の跡地を世界に誇れる町づくりができれば良い</li> </ul>	<p>●国内外に向けた継続的な情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 教育と連携した情報 発信方策の検討</li> </ul>
<p>●情報発信・合意形成の手法について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 今後私(一市民)も参加できる仕組みをつくってほしいと思った。地元で(夢を)話してみたい</li> <li>• こういうフォーラムはもっと地域住民を交えてやってほしい</li> <li>• 定期的にこういった場を引き続き継続してほしい</li> <li>• 討論会に外国人も参加していただくなど(国際交流・平和の視点)</li> </ul>	<p>●国内外に向けた継続的な情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 継続的な情報発信(必要に応じて適宜)</li> </ul>

あなたの声が沖繩の未来をつくります。ご意見をください。 /

## 普天間 飛行場跡地 未来予想図2.0

あなたについて教えてください。

### Q1. 性別

- ① 男性 ② 女性 ③ その他

### Q2. 年齢

- ① 10代 ② 20代 ③ 30代 ④ 40代  
⑤ 50代 ⑥ 60代 ⑦ 70代 ⑧ 80代以上

### Q3. 居住地

- ① 那覇市 ② 浦添市 ③ 宜野湾市 ④ 北谷町 ⑤ 中城村  
⑥ 北中城村 ⑦ 沖繩市 ⑧ その他県内 ( ) ⑨ 県外

普天間飛行場跡地についてのご意見をお聞かせください。

### Q4. 返選が予定されている普天間飛行場の跡地利用計画策定に向けた検討が行われていることを知っていましたか？

- ① 知っていた ② 知らなかった

### Q5. 跡地利用に関する取組についてどう思いますか？

- ① とても評価する ② やや評価する ③ どちらとも言えない  
④ あまり評価できない ⑤ 評価できない

### Q6. 普天間飛行場の跡地利用計画に関する情報を発信しているHP「普天間未来予想図」があることを知っていましたか？

- ① 知っていた ② 知らなかった (興味がわいた)  
③ 知らなかった (興味がわかなかった)

◎ アンケートのご協力ありがとうございました。ご記入が完了しました。ご記入が完了した方は、出入口に設置しているアンケート回収箱に投函してください。

### Q7. 普天間飛行場跡地がどんなまちなになったらよと思いますか？ [3つまで選択]

- ① 自然があふれる緑のなかのまち ② 環境に配慮したまち  
③ 歴史・文化がみえるまち ④ 企業や先端産業が集まるまち  
⑤ 県民・観光客が楽しめるまち ⑥ 世界中の人と交流できるまち  
⑦ 生活利便性の高いまち ⑧ 公共交通が充実したまち  
⑨ 災害に強いまち ⑩ その他 ( )

今回の県民フォーラム (パネル展含む) のご意見をお聞かせください。

### Q8. フォーラム全体の満足度についてお聞かせください。

- ① とても満足 ② 満足 ③ どちらとも言えない  
④ 不満 ⑤ とても不満

### Q9. フォーラム参加のきっかけは何ですか？

- ① 県市ホームページ ② 市広報紙 ③ 知人からの紹介  
④ 所属団体からの案内 ⑤ SNS ⑥ 掲示ポスター・チラシ  
⑦ 新聞 ⑧ その他 ( )

### Q10. 今後、どのような情報発信イベントがあれば参加したいと思いますか？ [3つまで選択]

- ① 講演会 ② 討論会 (ディスカッション)  
③ パネル展示会 ④ 体験型講座 (ワークショップ)  
⑤ 跡地利用を提案するコンペ (提案者として参加)  
⑥ 跡地利用を提案するコンペ (視聴者として参加)  
⑦ その他 ( )

他にもご意見や感想等ありましたら裏面にご記入をお願いします。

図IV-36 アンケート用紙

## 6) パネル展の結果

パネルは今年度制作（第IV章1）した大人向けパネルと子ども向けパネルの2種類を展示した。来場者には事前に配布したシールを関心があるパネル（1パネル/シール1枚）に貼って頂き、参加者が特に興味・関心を示すパネルを整理した。

※興味・関心を示すパネルの整理は大人向けパネルのみ

### ①展示パネル一覧

表IV-4 大人向けパネル

No.	タイトル	票数
1	普天間飛行場の跡地利用計画について	1
2	跡地利用の方向性	6
3	自然環境資源（現状）	15
4	歴史文化資源（マップ・重要遺跡）	22
5	歴史文化資源（戦前の集落）	14
6	空間構成の方針	5
7	配置方針図	10
8	ゾーンイメージ	19
9	みどりの中のまちで育む沖縄の新しいライフスタイル	23
10	基地の跡地利用の効果	17

表IV-5 子ども向けパネル

No.	タイトル
1	普天間飛行場のこと
2	飛行場はどんな場所？（地下水）
3	飛行場はどんな場所？（地形・自然）
4	飛行場はどんな場所？（歴史）
5	飛行場はどんな場所？（集落）
6	未来のまちの計画図
7	未来のまちのイメージ（都市拠点ゾーン）
8	未来のまちのイメージ（振興拠点ゾーン）
9	未来のまちのイメージ（居住ゾーン）
10	基地がまちになった例

### (3) まとめと今後の課題

#### 1) 来場者の反応

- ・今回の県民フォーラムでは、著名人である東京都市大学、特別教授の涌井史郎氏にご登壇頂いたことで、多くの来場者が興味・関心を示し来場した。
- ・オンライン同時配信や YouTube を活用したアーカイブ配信（期間限定）を行ったことから、これまで以上に広く情報発信ができたと考えられる。
- ・パネル展会場では、パネル展示のみではなく、昔の集落がわかる模型や未来のまちを体験できるコーナーを設けたことで、興味関心を示し立ち止まる来場者が多く見られた。

#### 2) 意見聴取について

- ・アンケートは紙媒体（現地参加者）と Web アンケート（オンライン参加者）を併用し、参加者全員に対して行った。
- ・過年度までの不特定多数の県民・市民を対象としたイベントと異なり、興味・関心を持ち来場された方に対するアンケート調査であったことから、多くの来場者から意見を聴取することができた。

#### 3) 内容について

- ・涌井先生の基調講演を受けて、参加者からは沖縄らしさを感じるまちづくりや商業施設頼みでない開発への期待を望む意見が見られた。
- ・みどりの中のまちづくりに対する期待も多く、「自然があふれる緑の中のまち」や「環境に配慮したまち」等、自然環境を大事にしたまちづくりを求める意見が多く見られた。
- ・パネル展会場においては、原風景模型や地形模型等が来場者の目を引くアイテムになったと考えられる。バーチャル普天間未来シティの体験コーナーでは、子ども連れの来場者が特に興味・関心を示しており、跡地の成り立ちや未来のまちのイメージをより明確に伝えることができたと考えられる。

#### 4) 今後の課題

情報発信イベントは、跡地利用計画の認知度向上や跡地利用に関する機運醸成及び意見聴取を目的としており、アンケート結果においても跡地利用に関する取組への肯定的な評価が多かった（約8割）ことから、今後も引き続き、県内外に向けて広く周知を図っていく必要があると考えられる。

今後参加したい情報発信イベントとしては、講演会、討論会（ディスカッション）、跡地利用を提案するコンペ（視聴者）が上位に挙がっていたため、今回と同様の情報発信イベントを継続して実施する他、一方通行の発信ではなく、参加者を巻き込んでいくことで、参加者自身が跡地利用を自分事として考えるきっかけとなるようなイベントを検討する必要がある。



### 3. ホームページの更新

本節では、今年度実施したホームページの更新内容について整理し、今後の展開について述べる。

#### (1) コンテンツの更新

計画内容の更新、イベントの報告など新たなコンテンツを順次格納し、サイトのアップデートを行い、地権者、県民・市民に情報発信の充実を図った。

更新項目は、以下の通りである。

##### 【更新項目】

- ・「全体計画の中間取りまとめ（第2回）」/PVの反映
- ・イベント開催報告（普天間飛行場跡地利用県民フォーラム）
- ・海外先進事例調査の結果報告

#### 1) 「全体計画の中間取りまとめ（第2回）」/PVの反映

沖縄県及び宜野湾市のホームページにおいて、今年度策定した「全体計画の中間取りまとめ（第2回）」の内容を反映した。

##### ① トピックの修正



- ・ 文言の修正  
「全体計画の中間取りまとめ」 → 「全体計画の中間取りまとめ（第2回）」

- ・ 文言の修正  
「全体計画の中間取りまとめ」 → 「全体計画の中間取りまとめ（第2回）」
- ・ リンク先の変更




1996年「沖縄に関する特別委員会」SACOの最終報告で  
 普天間飛行場の全面返還が合意されました。  
 「普天間飛行場の跡地」利用にむけて…沖縄県と宜野湾市は共同で取り組みをすすめ、  
 これまで学識経験者や地権者の皆さん、県民・市民の皆さん、関係機関等と一緒に  
 どうしていくかを考えてきました。  
 その調査結果をまとめた最新版が、「全体計画の中間取りまとめ(第2回)」(2022年7月)です。  
 このサイトでは、「普天間飛行場の跡地」利用にむけた考えをわかりやすくイメージでご紹介します。

- ・ 文言の修正  
 全体計画の中間取りまとめ(第2回)に合わせて文言を修正

計画のポイント「全体計画の中間取りまとめ(第2回)」から


**駐留軍用地が返還される**



各地の跡地開発が都市としてひろがり

返還跡地で進められている新しいまちの経済効果。今後返還が予定されている跡地に期待されていることをご紹介します。


**みどりの中のまちをつくる**



世界に誇れる環境

普天間飛行場に残っている自然や歴史・文化の資源を活かした「みどりの中のまち」をご紹介します。

**人々が集まるまちが**



集興

どんなまちができるのか、配筋力計画と各ゾーンのイメージスケッチをご紹介します。

- ・ 文言及びレイアウトの修正  
 全体計画の中間取りまとめ(第2回)に合わせて文言及びレイアウトを修正

**未来のまちイメージ VR アニメーション**

返還後の跡地利用を早期に実現するためには、返還前の早い段階から跡地利用計画を準備しておく必要があります。そこで、文化財や自然環境の文献調査・現況調査、有識者からの意見も伺いながら、跡地利用計画の検討を進め、まちのイメージをCGアニメーションで描いてみました。

**中央エリアのテーマ**  
 沖縄の風土・沖縄らしさ  
 沖縄振興の舞台・自然エネルギー

**北園エリアのテーマ**  
 新しいまちの「コミュニティ」

**南園エリアのテーマ**  
 世界に誇る「緑の中のまち」

② 駐留軍用地が返還されるページ

**「駐留軍用地」が返還される**

沖縄中南部では、返還跡地を利用した“まちづくり”が始まっています。

**開発が進む返還跡地**



大きな経済効果が生み出されている

**沖縄中南部でこれから返還が予定されている駐留軍用地**

**中南部都市圏駐留軍用地跡地利用広域構想**



キャンプ瑞慶覧(施設技術地区の一部) 2020年3月返還済(約11ha)

キャンプ瑞慶覧(西普天間住宅地区) 2015年3月返還済(約51ha)

牧港補給地区(約26ha)

那覇港湾施設(約56ha)

普天間飛行場(約476ha)

陸軍貯油施設 第1鶴江タンク・ファーム(約16ha)

キャンプ鶴江南側地区(約68ha)

キャンプ瑞慶覧(約90ha)

まちが生まれつながり…都市としてひろがります!

- ・ 文言及びレイアウトの修正
- ・ 写真の差替え
- ・ 返還済の駐留軍用地を反映
- ・ “沖縄県の跡地利用について”のリンクを記載

(沖縄県の跡地利用について)  
 詳しくは下記URLよりご覧ください。  
<https://www.pref.okinawa.jp/site/kikaku/tochitai/atochi/kitiatotiryoyou/kitiatotiryoyounituite.html>

つづき **みどりの中のまちをつくる** をみる

### ③みどりの中のまちをつくるページ

#### 「みどりの中のまち」をつくる

普天間飛行場は自然と歴史・文化の資源が残っているところだから…

#### 跡地の将来像

世界に誇れる優れた環境の創造～みどり（歴史・みどり・地形・水）の中のまちづくり～

県内有数の自然と歴史・文化の蓄積を継承・発展させ、

都市機能を融合させた豊かな地域資源を活かしつつ自律的に発展していくまちづくり

#### 計画はこの層のように考えられています！



・文言及びレイアウトの修正  
全体計画の中間取りまとめ（第2回）に合わせて文言及びレイアウトを修正

跡地の将来像及び跡地利用計画の考え方を分かりやすく掲載

[時代が変わっても、揺らぐことなく、大切にしたい3つのまちづくりの方向性]

#### ①広域的な水と緑のネットワーク構造の形成

普天間飛行場に残る水と緑。新たに生み出す緑。周辺の水とを一体化した、水と緑のネットワークを創ります。



跡地利用に取組中、時間が経過しても変わらないまちづくりの方向性を紹介

#### ②沖縄振興の舞台となるみどりの中のまちづくり

水と緑のネットワークを活かし、都市機能を融合させることで、この地の価値を高め、魅力的な環境のみどりの中のまちをつくります。



#### ③環境の豊かさが持続するまちづくり

水と緑の環境の豊かさを持続させるために、人材やその特点の最新技術を活かしています。



つづき **人々が集まるまちができる** 充める

④人々が集まるまちができるページ

人々が集まるまちができる

こんなまちにしようと考えています！

配器方針図

この配器はひとつの例です。  
「普天間飛行場跡地利用計画策定に向けた中間取りまとめ（第2回）から」



・文言及びレイアウトの修正  
全体計画の中間取りまとめ（第2回）に合わせて文言及びレイアウトを修正





都市拠点ゾーンのイメージ



都市拠点ゾーンのイメージを紹介  
未来のまちのイメージをスケッチ  
で分かりやすく掲載

居住ゾーンのイメージ



居住ゾーンのイメージを紹介  
未来のまちのイメージをスケッチ  
で分かりやすく掲載

つづき **未来のまち  
イメージVR** をみる

## 2) イベント開催報告

11月に開催した「普天間飛行場跡地利用県民フォーラム」の開催結果を会場風景、来場者属性、アンケート集計結果を抜粋して、来場された方や初めて見る方にも概略がつかめるようにまとめた。

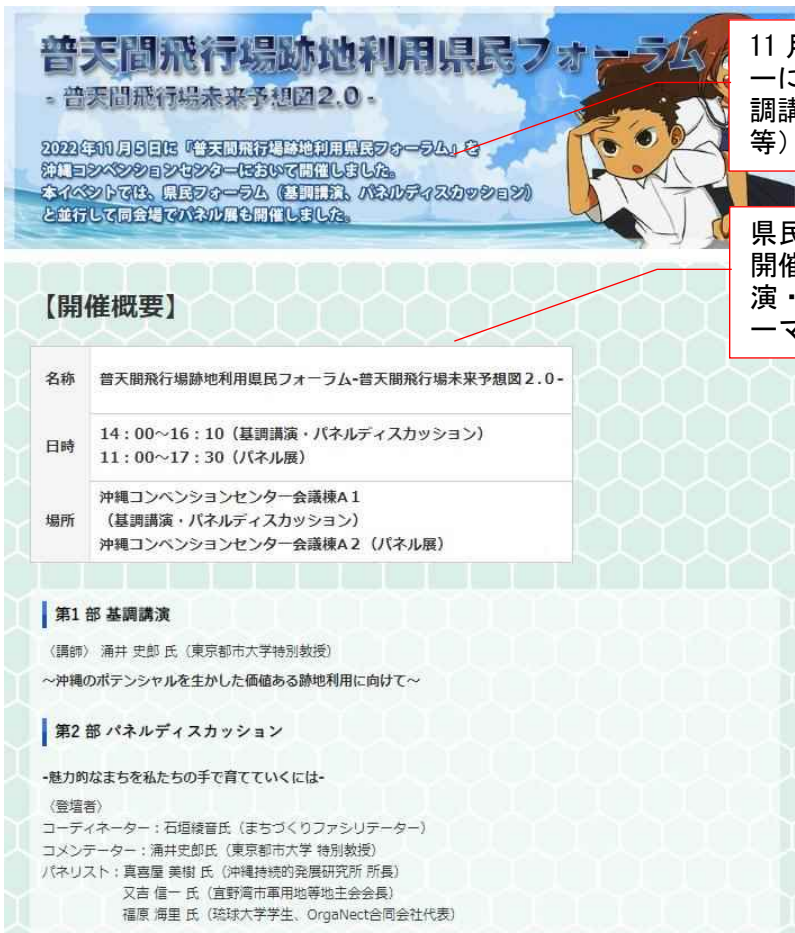
### ① トピックスの修正



・文言の修正  
「パネル展」→「普天間飛行場跡地利用県民フォーラム - 普天間飛行場未来予想図 2.0-」

・文言の修正  
「パネル展」→「普天間飛行場跡地利用県民フォーラム開催報告」

### ② イベント開催報告ページ



11月に沖縄コンベンションセンターにおいて、県民フォーラム（基調講演・パネルディスカッション等）を開催したことを紹介

県民フォーラムの概要を紹介  
開催日時・場所とともに、基調講演・パネルディスカッションのテーマ及び登壇者を紹介

#### 【開催概要】

名称	普天間飛行場跡地利用県民フォーラム-普天間飛行場未来予想図 2.0-
日時	14:00~16:10 (基調講演・パネルディスカッション) 11:00~17:30 (パネル展)
場所	沖縄コンベンションセンター会議棟A1 (基調講演・パネルディスカッション) 沖縄コンベンションセンター会議棟A2 (パネル展)

#### 第1部 基調講演

〈講師〉 浦井 史郎 氏 (東京都市大学特別教授)  
～沖縄のポテンシャルを生かした価値ある跡地利用に向けて～

#### 第2部 パネルディスカッション

-魅力あるまちを私たちの手で育てていくには-  
〈登壇者〉  
コーディネーター：石垣綾音氏 (まちづくりファシリテーター)  
コメンテーター：浦井史郎氏 (東京都市大学 特別教授)  
パネリスト：真喜屋 美樹 氏 (沖縄持続的発展研究所 所長)  
又吉 信一 氏 (直野海市軍用地等地主会会長)  
福原 海里 氏 (琉球大学学生、OrgaNect合同会社代表)



来場者数合計：189  
 会場参加：137人 オンライン参加：52

来場者数を紹介

県民フォーラム会場風景



会場の風景を写真で紹介

パネル展会場風景



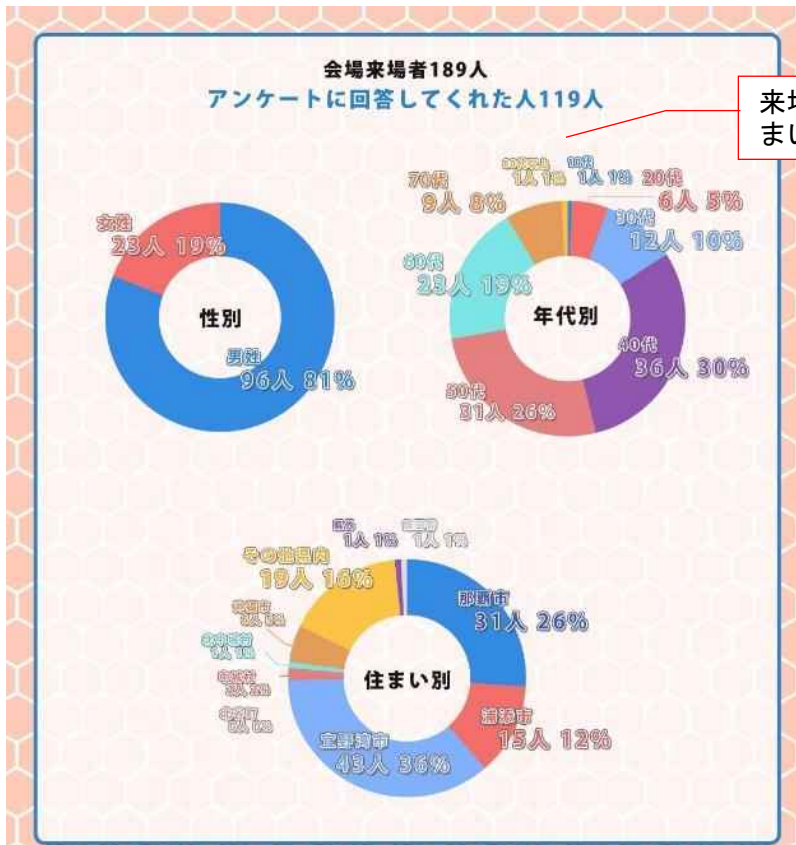
大人から子どもまで幅広い世代の人が興味を示してくれたよ！

展示会場であなさんにご覧いただいたパネルは、こちらでご覧いただけます。

大人向け パネルを見る

子ども向け パネルを見る

・パネルを紹介  
 会場で展示していたパネル（大人向けパネル・子ども向けパネル）を紹介



来場者の属性を性別、年代別、住まい別で紹介



Q. 普天間飛行場の跡地利用計画策定に向けた検討が行われていることを知っていましたか？



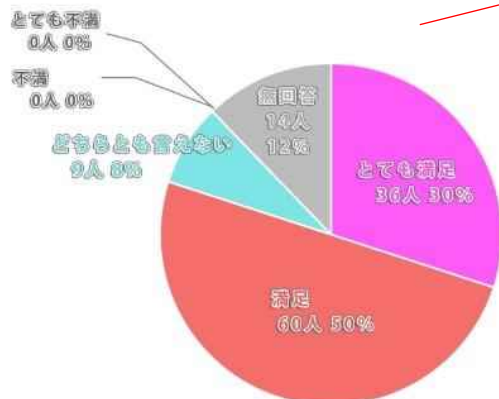
会場内及びオンライン参加者に実施したアンケート調査（跡地利用に向けた取組の認知）の結果を紹介

Q. 普天間飛行場跡地がどんなまちになったらよいと思いますか？



会場内及びオンライン参加者に実施したアンケート調査（跡地利用のあり方に関して）の結果を紹介

Q. フォーラム全体の満足度についてお聞かせください



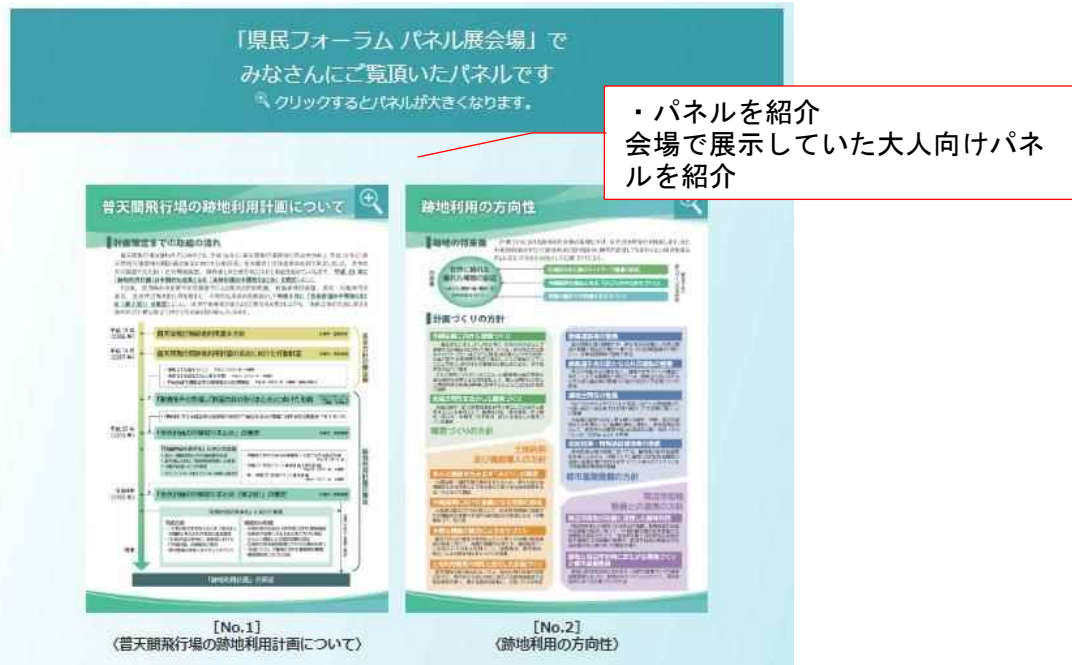
会場内及びオンライン参加者に実施したアンケート調査（イベントの満足度）の結果を紹介



過去のイベントはこちら



### ③パネル紹介ページ（大人向けパネル）





【No.3】  
〈自然環境資源（現状）〉



【No.4】  
〈歴史文化資源（マップ・重要遺跡）〉



【No.5】  
〈歴史文化資源（戦前の集落）〉



【No.6】  
〈空間構成の方針〉



【No.7】  
〈配置方針図〉



【No.8】  
〈ゾーンイメージ〉





【No.9】  
〈みどりの中でのまちで育む沖繩の新しいライフスタイル〉

【No.10】  
〈基地の跡地利用の効果〉

④ パネル紹介ページ（子ども向けパネル）



・ パネルを紹介  
会場で展示していた子ども向けパネルを紹介

【No.1】  
〈普天間飛行場のこと〉

【No.2】  
〈普天間飛行場はどんな場所？（地下水）〉

【No.3】  
〈飛行場はどんな場所？（地形・自然）〉

【No.4】  
〈飛行場はどんな場所？（歴史）〉



### 3) みどりの中のまちづくり（海外先進事例調査）

「みどりの中のまちづくり」ページ中に新たなリンクボタンを設置し、海外先進事例の紹介ページを新設した。

今年度の調査先であるフランスのまちづくりについて、環境づくりと産業振興が融合した魅力あるまちづくりの視点で捉え、跡地利用計画で導入が求められている基盤整備、しくみ等について写真を中心に分かりやすく紹介するページとした。

「みどりの中のまち」事例のひとつ

## フランス

環境づくりと産業振興が融合した魅力あるまちづくりに向けて、フランスの事例を視察してきました。「ソフィア・アンティボリス」、「ニース・エコバレー」では豊かな自然と都市機能を融合させたまちづくりが行われています。

- 自然あふれる緑のあるまち
- 人が集まる、楽しめる場所
- 道路や公共交通

訪れた都市の位置を掲載

## ソフィア・アンティボリス

**自然あふれる緑のあるまち**

ソフィア・アンティボリスの面積約2,400haの9割が緑地（原指定公園）となっており、法律で建物を整備する規模の緑地を 整備することが定められています。

まちの概要について、項目別（自然があふれる緑のあるまち、道路や公共交通、人が集まる、楽しめる場所）に写真を用いて分かりやすく紹介

ソフィア・アンティボリスの街並み      研究施設の様子      コート・ダジュール大学の様子

**道路や公共交通**

当初は車移動が中心でしたが、社会情勢の変化を踏まえ、シャトルバス（10分～30分/回程度の頻度で、ニース市内を結ぶ）が整備され、利便性が向上しています。

自然環境を優先したインフラ整備を進めた結果、道路は地形に沿うカーブの多い構造となっています。

公共交通（バス）の様子      地域内の道路の様子

**豊かな自然環境と都市機能の融合**

周囲が森林であることから、火災の心配がある製造業の立地は規制されており、通産分野や研究機関等の立地を誘導しています。

当初は、産業拠点として位置づけていたことから、住宅はありませんでした（近隣のまちに居住）が、入居企業等の要請により、現在は住宅や生活利便施設等が整備されています。

入居企業は、当地域内の環境だけでなく、フランス南部の気候や集積している観光資源やレジャー資源等を評価し、従業員満足度も高い。

ソフィア・アンティボリスの街並み      ソフィア・アンティボリスの街並み      緑に囲まれた研究所の様子



## ニース・エコバレー

### 自然あふれる緑の中のまち

開発区域として位置づけられているエリア以外は開発が抑制されており、自然環境の保全が図られています。

新築の建物は環境認証が義務化されており、認証された建物は資産価値の向上、税制優遇等が実施されています。



保全区域の様子



保全区域の村落内の様子



新設建築物の様子

### 道路や公共交通

「15分で勤けるまち」を目標に公共交通の充実を推進。

空港近接の立地性を活かしたマルチモーダルハブ（空港、自動車道（高速道路、幹線道路）、鉄道、バス、LRT）を整備。

既存道路空間の再配分（車道を歩道や自転車道に転換）を推進。



MRT（マス・ラビッド・トランジット）



自転車通行帯の様子



まちなかのレンタサイクルの様子

### 豊かな自然環境と都市機能の融合

開発区域と保全区域とで明確に分けられ、自然環境を保全する取り組みが行われています。都市機能を集約して効率性の高い都市構造への転換を進めるとともに、市街地内で老朽化したコンベンション施設等に移転し、跡地を公園や緑地帯として整備することで、市街地の魅力向上を図っています。

また、商業機能や研究機能を誘致するとともに、価値な住宅供給も計画されています。

建物を整備するにあたって、コンペが行われ地域性のあるデザイン等を評価し、整備が行われています。洪水リスクがある箇所については、緑地面積を増やすことによる雨水浸透対策等が行われています。



ニース市街地の街並み



開発区域の集合住宅



河川上部に整備された緑地帯

「緑の中のまち」事例のひとつ。 **シンガポール**

「緑の中のまち」事例のひとつ。 **オーストラリア**

「緑の中のまち」事例のひとつ。 **ドイツ**

「緑の中のまちづくり」 **シンガポール**

## (2) アクセス解析（2月末まで集計）

Google アナリティクスを使いホームページのアクセス解析を行った。

月毎のアクセス数は、平均約 741 名（昨年度（令和 3 年度）522 名、一昨年度（令和 2 年度）367 名）のユーザーが来訪し、約 1,814 ページビュー（昨年度 1,316 ページビュー、一昨年度 1,157 ページビュー）、1 ユーザーあたり約 2 ページを閲覧しており、昨年度及び一昨年度と比較すると、来訪者及びページビュー数ともに増加傾向であることが分かる。特に、今年度 11 月に実施した「普天間飛行場跡地利用県民フォーラム」の期間中においては、ページビュー数（閲覧されたページの合計数）の顕著な増加が見られ、イベント参加者が跡地利用計画に興味・関心を持ち、サイトにアクセスしたことでページビュー数が増加したと考えられる。

イベント参加者に実施したアンケート調査の結果、跡地利用計画に対する認知度は高かったが、本ホームページの存在は回答者の約半数が知らなかったと回答していることから、今後も継続した周知活動を行う必要があると考えられる。

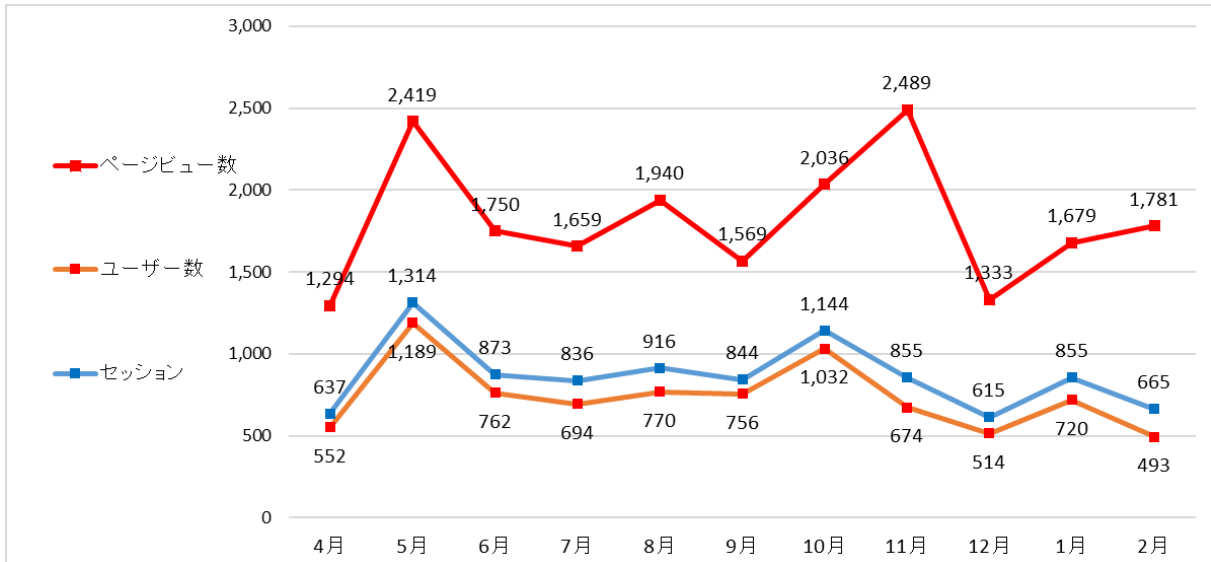
来訪者が多く閲覧しているページについては、「計画のポイント」としてまとめて掲載している「駐留軍用地が返還される（旧：基地が返還される）」、「未来のまちイメージ PV」、「跡地利用に伴う経済効果」が上位となっている。また、サイト内のユーザーの動きとしては、複数のページを閲覧した来訪者は全体の 3 割で、残りの 7 割の来訪者はサイト内で遷移せずに離脱していることがわかる。

エリア別のアクセス数については、米国やシンガポール等の外国からのアクセスがわずかにあるものの約 98%が日本となっている。また、市町村別のアクセス数に関しては、那覇市が 10%と最も多く、次いで大阪市 6%、福岡市 5%の順となっており、宜野湾市からのアクセスは、10 番目に多い値で全体の約 2%にとどまっている。県外市区町村からのアクセスについては、人口の多い市区町村（大阪市、福岡市、横浜市、名古屋市）からのアクセスが相対的に多くなっていると考えられる。

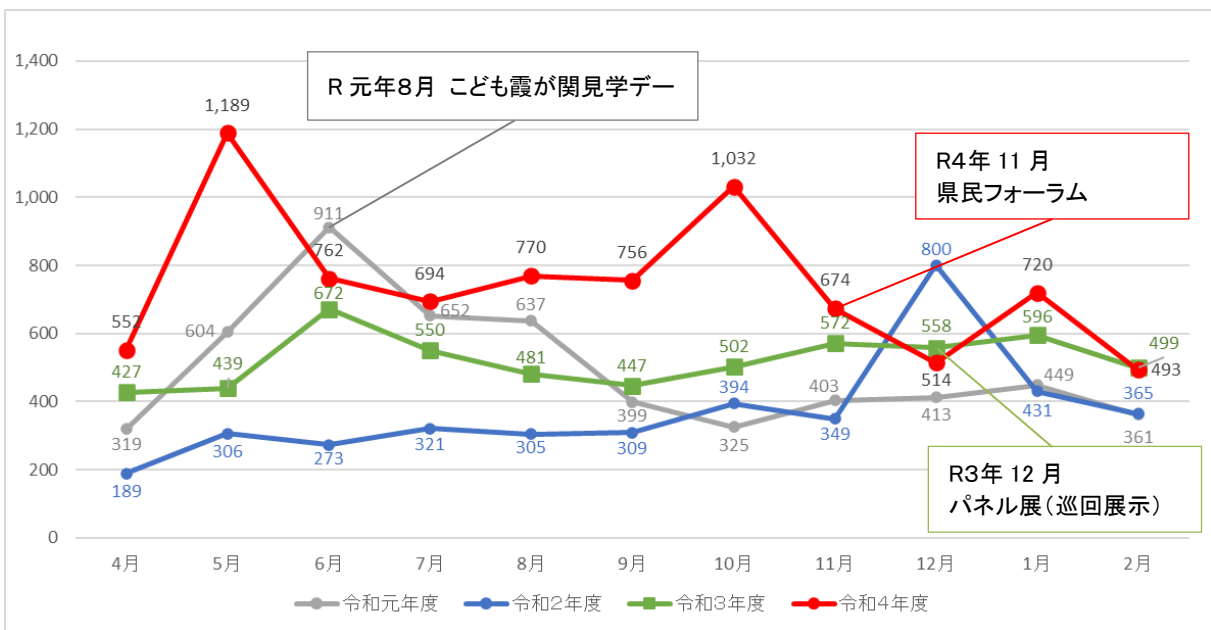
ホームページへのアクセスに利用している端末の内訳については、スマートフォン等のモバイルが約 56%と最も多く、次いで PC（デスクトップ）が約 41%、タブレット 3%の順となっている。過去 2 年間の利用端末の推移においても、モバイルが最も高い割合を占めていることから、ホームページの更新にあたっては、モバイルからの見え方を念頭に置いたデザイン、コンテンツ制作を検討する必要があると考える。

表IV-6 月毎のアクセス数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
セッション	637	1,314	873	836	916	844	1,144	855	615	855	665	9,554
ユーザー数	552	1,189	762	694	770	756	1,032	674	514	720	493	8,156
ページビュー数	1,294	2,419	1,750	1,659	1,940	1,569	2,036	2,489	1,333	1,679	1,781	19,949
ページ/セッション (頁)	2.03	1.84	2.00	1.98	2.12	1.86	1.78	2.91	2.17	1.96	2.68	平均 2.09
訪問時の平均滞在時間 (分:秒)	01:19	01:12	01:32	02:14	01:36	01:31	01:21	03:15	02:11	02:15	02:50	平均 01:52
直帰率 (%)	66.09%	66.51%	66.55%	64.83%	63.86%	65.28%	68.62%	60.00%	68.94%	63.98%	62.11%	平均 65.27%



【用語解説】セッション: アクセスユーザーがサイトに流入してから離脱するまでの一連のページ遷移  
 ユーザー数: 指定した期間にサイトにアクセスしたユーザーの数(同じユーザーは1回だけカウント)  
 ページビュー数: 閲覧されたページの合計数。同じページが繰り返し表示された場合も集計  
 ページ/セッション: 1セッションあたりのページビュー数。1回あたり何ページを閲覧したのかを判断  
 訪問時の平均滞在時間: 1セッションあたりの平均滞在時間  
 直帰率: 1ページだけを閲覧した訪問数の割合



図IV-37 ユーザー数の推移

表IV-7 ページ別ページビュー数（上位10ページのみ掲載）

単位：頁

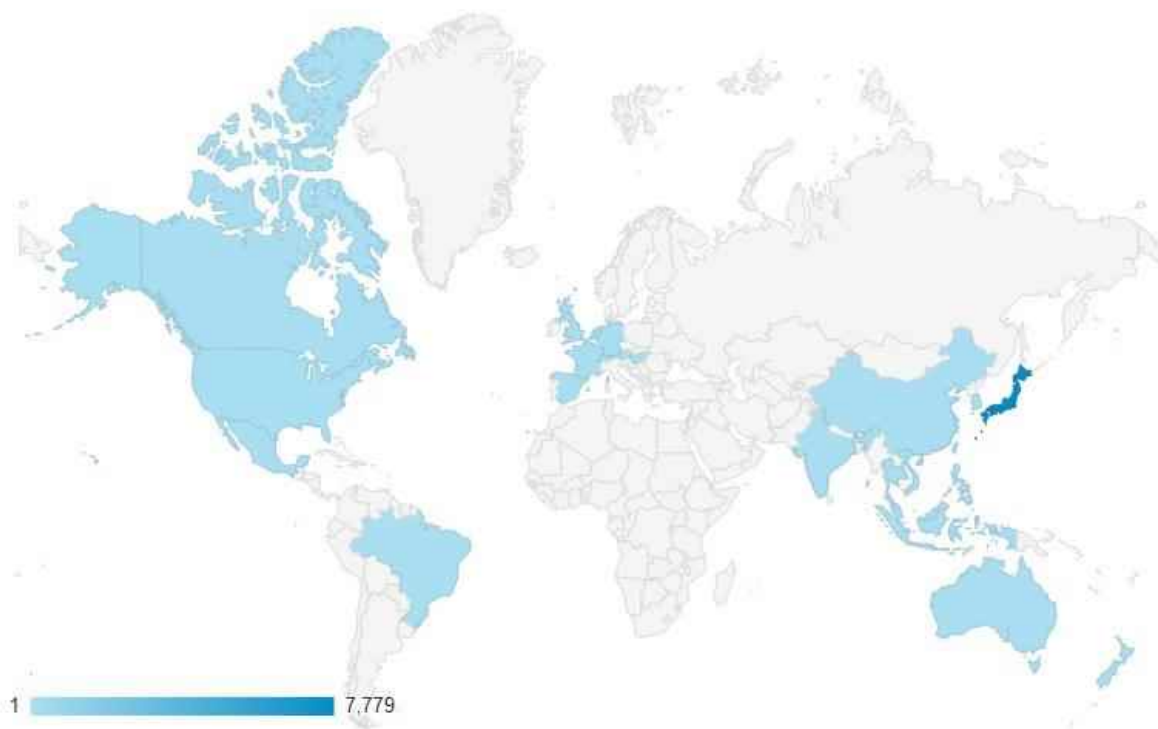
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
トップページ	470	784	527	450	596	593	711	567	359	561	399	6,017
駐留軍用地が返還される (旧:基地が返還される)	229	608	337	334	428	305	384	328	246	259	208	3,666
未来のまちイメージPV	125	195	160	155	156	153	159	188	90	190	79	1,650
跡地利用に伴う経済効果	45	95	80	118	106	102	118	70	44	72	33	883
人々が集まるまちができる	52	87	67	55	78	61	103	113	69	60	27	772
まちがつながる	82	136	112	104	106	91	87	-	-	-	-	718
みどりの中のまちをつくる (旧:緑の中のまちをつくる)	34	64	64	59	67	34	48	110	61	45	27	613
模型で見るむかしの風景ページ	33	49	40	34	40	20	56	42	23	57	15	409
原風景を探しに行こう!	42	38	42	45	43	22	37	29	19	43	23	383
緑の中のまちづくり	12	38	38	30	34	27	30	38	31	36	32	346
バーチャル普天間未来シティ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	37	18	55



図IV-38 サイト内のユーザーの動きの解析

表IV-8 エリア別（国別）のアクセス数（上位10か国のみ掲載）

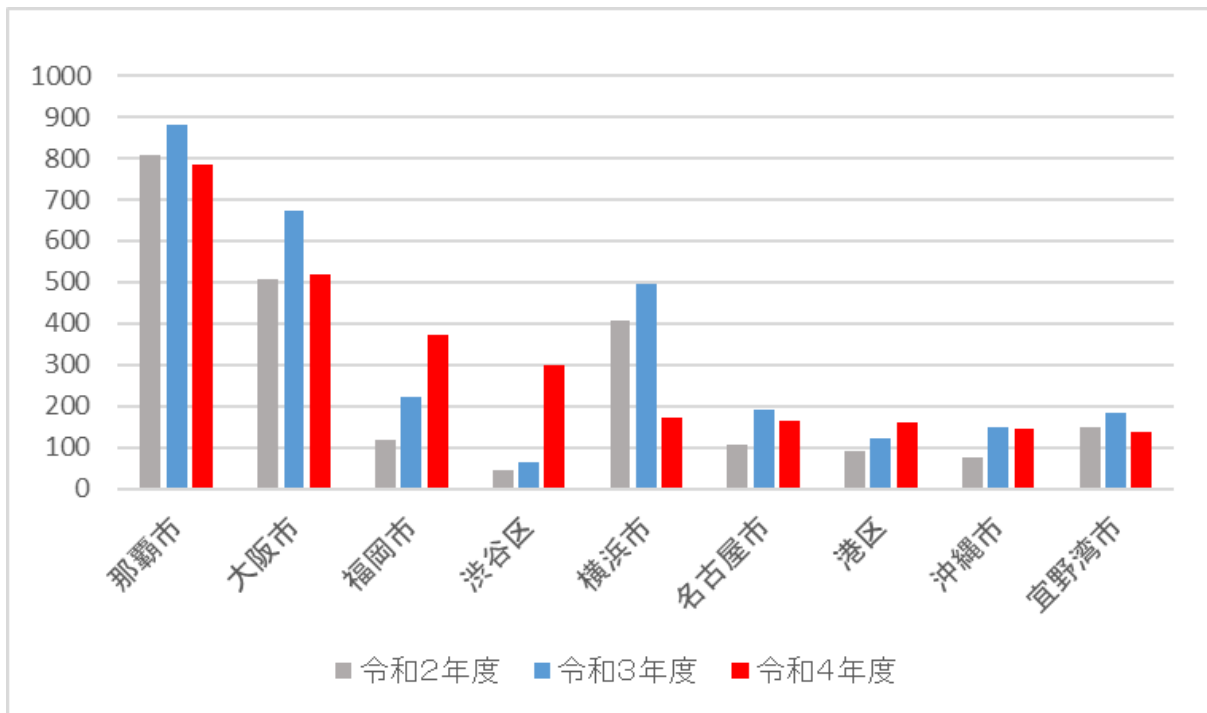
国	ユーザー (人)	新規 ユーザー (人)	セッション (頁)	直帰率 (%)	ページ/ セッション (頁)	平均セッ ション時間 (分:秒)
日本	7,779	7,764	9,432	65.10%	2.10	112.50
アメリカ	44	44	44	77.27%	1.52	105.52
シンガポ ール	10	10	11	81.82%	2.27	111.00
台湾	8	7	10	60.00%	1.70	49.50
韓国	6	6	6	83.33%	1.33	53.00
不明	6	6	6	100.00%	1.00	0.00
タイ	5	5	5	80.00%	1.40	254.00
オーストラ リア	4	4	4	75.00%	2.50	77.25
ドイツ	4	4	4	75.00%	1.25	10.00
香港	4	3	4	75.00%	1.25	52.75
合計	7,897	7,880	9,554	(平均) 65.27%	(平均) 2.09	(平均) 112.05



図IV-39 国別のアクセス状況

表IV-9 エリア別（市区町村別）のアクセス数（上位10地域のみ掲載）

国	ユーザー (人)	新規 ユーザー (人)	セッション (頁)	直帰率 (%)	ページ/ セッション (頁)	平均セッ ション時間 (分:秒)
不明	1,732	1,657	2,053	65.17%	2.19	144.43
那覇市	785	753	1,118	53.31%	2.94	162.48
大阪市	518	504	575	66.96%	1.69	80.25
福岡市	372	359	420	68.57%	1.78	67.17
渋谷区	299	285	336	70.83%	1.75	87.83
横浜市	172	166	189	66.67%	1.88	90.02
名古屋市	163	161	176	64.20%	1.98	112.40
港区	162	160	192	63.02%	2.25	126.09
沖縄市	145	141	165	52.73%	2.52	123.18
宜野湾市	136	127	158	57.59%	2.10	135.23
合計	8,621	7,880	9,554	(平均) 65.27%	(平均) 2.09	(平均) 112.05

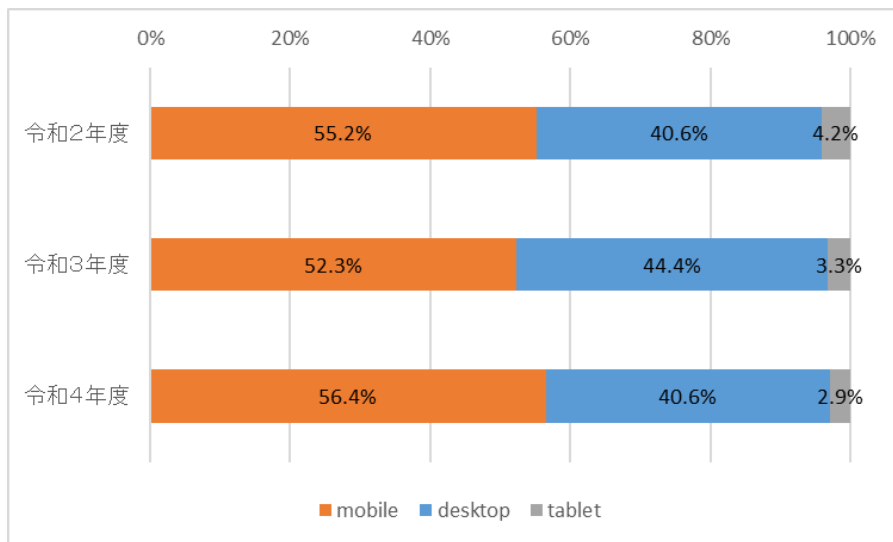


図IV-40 市町村別アクセス数の推移



表IV-10 利用端末別（PC、タブレット、スマートフォン）のアクセス数

デバイス	ユーザー (人)	新規 ユーザー (人)	セッション (頁)	直帰率 (%)	ページ/ セッション (頁)	平均セッ ション時間 (分:秒)
mobile	4,462	4,455	5,085	70.54%	1.65	65.52
desktop	3,210	3,194	4,210	58.76%	2.64	170.15
tablet	233	231	259	67.57%	1.65	112.05
合計	7,905	7,880	9,554	(平均) 65.62%	(平均) 1.98	(平均) 115.91



図IV-41 利用端末の推移

### (3) 今後の展開

今年度までに毎年コンテンツの更新を行いながら、中身の充実を図ってきた。現状のサイトで見られるコンテンツは以下の通りである。

- ・動画で見る普天間未来予想図（中間取りまとめ（第2回））
- ・バーチャル普天間未来シティ
- ・未来のまちイメージPV（動画）
- ・「緑の中のまちづくり」（海外事例動画あり）
- ・体験イベント（アンケート結果あり）
- ・模型で見る昔の風景（字宜野湾・字神山まちまーい体験報告含む）
- ・ゆめのあるぎのわんみらい（児童生徒絵画コンクール受賞作ギャラリー）
- ・県民の声（地権者、市民の活動紹介、体験イベント紹介、絵画コンクール紹介、跡地利用計画提案コンペ受賞作紹介）
- ・中南部都市圏駐留軍用地跡地利用広域構想
- ・跡地利用に伴う経済効果
- ・関連リンク
- ・中間取りまとめ（英語版）



ホームページでは、中間取りまとめ（第2回）のポイントやこれまで作成してきた未来のまちイメージPV、さらには県民・市民の声等、跡地利用に関する様々な取組を分かりやすく発信している。

今年度開催したイベントは過年度までのイベントと異なり、興味・関心を持ち来場された方に対してのアンケート調査であったことから、9割以上の方が跡地利用計画策定に向けた検討が行われていることを知っていたが、ホームページの存在を知っていた方は約6割に留まっていた。しかし、ホームページを知らなかったと回答した方のうち、約9割が「ホームページを知らなかったが興味がわいた」と回答したことから、ホームページの存在を周知することでアクセス増につながると考えられる。そのため、情報発信・合意形成イベント時には、ホームページを閲覧できるブースの設置やホームページのコンテンツを紹介するフライヤーの作成・配布等を併せて実施することが望まれる。

また、ホームページへのアクセスに利用している端末は、スマートフォン等のモバイル端末が最も高い割合を占めていることから、ホームページの更新にあたっては、スマートフォン等のモバイル端末からの見え方を念頭に置いたデザイン、コンテンツ制作を検討する必要があると考える。

コンテンツの一つである「バーチャル普天間未来シティ」は、普天間飛行場跡地の計画内容や歴史等の地域資源を見ることができるとともに、未来のまちを体験できることから、学校教育の場等での活用も考えられる。今後、未来のまちを体験できるバーチャル普天間未来シティの周知とともに、県民・市民・地権者が何度もアクセスしてみたいと思えるようなコンテンツを追加・周知する必要がある。

